

令和3年度公益財団法人せたがや文化財団の経営状況に関する書類の提出

1. 実施事業

世田谷文化生活情報センター / 生活工房		世田谷文化生活情報センター / 音楽事業部	
安西水丸ポスター展	10,643人	シリーズ和・華・調	263人
色覚を考える展 ヒトと動物の色世界	54,019人	せたがや音楽研究所	130人
アメリカン・トイズ since1920s 暮らしと時代を映す玩具展	42,887人	世田谷アーティスト支援企画 Discovery Setagaya Sounds	193人
展覧会 日本今ばなし きいろいカラス	19,897人	室内楽シリーズ	503人
セミナー 暮らしの創造 団地文化から考える 公・共・私	67人	せたがやジュニアオーケストラオータムコンサート	327人
若年層向けセミナー「どう？就活 自分と仕事の 出会い方」	110人	せたがやジュニアオーケストラ運営	70人
展覧会：「大平農園と畑のレシピ帖展」、「生活工房常設展示 生活工房アレコレ」 セミナー・ワークショップ：「穴アークイブ2021」、「朗読講座 豊かなことばの世界」、「おはなしいっぱい」ほか		【一部中止】 連携コンサート、せたがやまちかど・まちなかコンサート ほか	
総入場者数	212,399人	総入場者数	2,608人
世田谷文化生活情報センター / 世田谷パブリックシアター			
上村聡史演出作品 『森 フォレ』	4,995人	白井晃演出作品 『マーキュリー・ファー Mercury Fur』	13,516人
日仏国際共同制作ダンス公演 『ゴールドシャワー』	963人	『MANSAI 解体新書 その参拾弐 完』 (トーク+戯曲リーディング)	1,239人
小山ゆうな演出作品『愛するとき 死するとき』	4,680人	狂言劇場 その九『武悪』『法螺待』/『舟渡智』『鮎』、学校の ためのワークショップ、移動劇場「@ホーム公演」、こどもプロ ジェクト2021/フォルモサ・サーカス・アート(FOCA)「悟空～ 冒険の幕開け～」/「せたがや夏いちらくご」/「日野皓正 presents “Jazz for Kids ”」/「地域の物語」 ほか	
栗山民也演出作品 瀬戸山美咲劇作 『彼女を笑う人がいても』	7,052人	総入場者数	147,748人
世田谷文化生活情報センター / 国際事業部			
せたがや国際交流センターの運営	3,939人	多文化理解講座	363人
にほんご交流会	147人	外国人のためのまち歩きツアー	23人
区民国際交流事業	575人	総入場者数	5,047人
世田谷美術館		世田谷文学館	
アイノとアルヴァ 二人のアールト フィンランド 建築・デザインの神話	25,687人	イラストレーター 安西水丸展	27,627人
塔本シスコ展 シスコ・パラダイス かかずにはいられない！人生絵日記	14,794人	描くひと 谷口ジロー展	21,751人
生誕160年記念 グランマ・モーゼス展 素敵な100年人生	53,312人	コレクション展前期 受贈記念 夷齋先生・石川淳	4,268人
出版120周年 ビーターラビット™展	5,440人	コレクション展後期 開館25周年記念 セタブン大コレクション展 PART1 ふかくこの生を愛すべし	7,985人
本館ミュージアム コレクション(特別篇除き年 3回)、各分館収蔵品展(年2回)	47,838人	ライブラリー「ほんとう」の運営	15,614人
[ミュージアム コレクション特別篇] グローバル化時代の現代美術 “セタビ”のコレクションで楽しむ世界旅行	6,356人	どこでも文学館(出張展示、ワークショップな どの教育普及事業)	185,268人
講座・ワークショップ、鑑賞教室ほか		オンライントークイベント「水丸カレー部、集 合！」、台湾交流ミニイベント2021、ほか	1,001人
総入場者数	276,315人	総入場者数	270,977人

2. 損益計算書(正味財産増減計算書)

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円) 2

科 目	公益目的事業会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引 消去	合計
	公1	公2	小計	収1	収2	小計			
	文化芸術の振興、 地域文化創造活動 の支援及び教育普 及に関する事業	市民活動の支援 及び 振興に関する事業		物品販売事業	飲食物提供事業				
一般正味財産の部									
1 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	2,619,073		2,619,073
特定資産運用益	764,812	0	764,812	0	0	0	0		764,812
事業収益	1,135,591,613	210,000	1,135,801,613	29,506,511	2,862,996	32,369,507	0		1,168,171,120
受取区補助金	1,156,869,000	35,594,000	1,192,463,000	0	0	0	0		1,192,463,000
受取助成金等	162,823,479	0	162,823,479	0	0	0	0		162,823,479
受取寄附金	466,985	0	466,985	0	0	0	0		466,985
受取負担金	10,041,807	0	10,041,807	415,831	4,601,185	5,017,016	0		15,058,823
雑収益	362,042	0	362,042	110	0	110	0		362,152
経常収益計(A)	2,466,919,738	35,804,000	2,502,723,738	29,922,452	7,464,181	37,386,633	2,619,073		2,542,729,444
(2) 経常費用									
事業費	2,459,822,099	27,813,926	2,487,636,025	18,127,694	5,432,560	23,560,254			2,511,196,279
管理費			0			0	7,424,626		7,424,626
経常費用計(B)	2,459,822,099	27,813,926	2,487,636,025	18,127,694	5,432,560	23,560,254	7,424,626		2,518,620,905
当期経常増減額(C)=(A-B)	7,097,639	7,990,074	15,087,713	11,794,758	2,031,621	13,826,379	4,805,553		24,108,539
2 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益計(D)	0	0	0	0	0	0	0		0
(2) 経常外費用									
経常外費用計(E)	4,964	0	4,964	0	0	0	0		4,964
当期経常外増減額(F)=(D-E)	4,964	0	4,964	0	0	0	0		4,964
他会計振替前当期一般正味財産増減額(G)=(C+F)	7,092,675	7,990,074	15,082,749	11,794,758	2,031,621	13,826,379	4,805,553		24,103,575
他会計振替額(H)	6,878,360	0	6,878,360	5,867,667	1,010,693	6,878,360	0		0
法人税、都民税及び事業税(I)			0	59,714	80,286	140,000			140,000
当期一般正味財産増減額(J)=(G+H-I)	13,971,035	7,990,074	21,961,109	5,867,377	940,642	6,808,019	4,805,553		23,963,575
一般正味財産期首残高(K)	616,291,667	85,444	616,377,111	115,678,700	13,424,306	129,103,006	6,567,702		752,047,819
一般正味財産期末残高(L)=(J+K)	630,262,702	8,075,518	638,338,220	121,546,077	14,364,948	135,911,025	1,762,149		776,011,394
指定正味財産の部									
受取寄附金	622,000	0	622,000	0	0	0	0		622,000
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	2,619,073		2,619,073
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	2,619,073		2,619,073
当期指定正味財産増減額(M)	622,000	0	622,000	0	0	0	0		622,000
指定正味財産期首残高(N)	5,844,000	0	5,844,000	0	0	0	800,000,000		805,844,000
指定正味財産期末残高(O)=(M+N)	6,466,000	0	6,466,000	0	0	0	800,000,000		806,466,000
正味財産期末残高(P)=(L+O)	636,728,702	8,075,518	644,804,220	121,546,077	14,364,948	135,911,025	801,762,149		1,582,477,394

令和3年度
公益財団法人せたがや文化財団

事業報告書
財務諸表

自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日

公益財団法人 せたがや文化財団

目 次

(事業報告書)

1	令和3年度事業報告総括	1
2	事業実績	11
3	事業評価	44
4	重要な契約の概要	48
5	登記事項	49
6	理事会・評議員会開催状況	50
7	役員名簿	53
8	評議員名簿	54
9	財団幹部名簿	55

(財務諸表)

1	貸借対照表	57
2	損益計算書（正味財産増減計算書）	58
3	附属明細書	72
4	財産目録	73

(監査報告)

	監査報告書	77
--	-------------	----

事業報告書

1. 令和3年度事業報告総括

(1) 財団全体の取組

せたがや文化財団は、定款の目的に掲げる「幅広い文化・芸術事業の展開と多様な文化創造活動や市民活動などの支援」の実現に向け、世田谷区とともに文化・芸術振興の取り組みを進めてきた。

令和3年度のせたがや文化財団は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、美術館、文学館等が4月下旬から約1か月間、休館を余儀なくされるという事態からのスタートとなった。しかしながら、全館全ての事業が中止、延期、見直しとなった前年度の経験等から、美術館の企画展で日時予約制を導入して「密」を回避しながら入場者数の平準化を図るなど、各館の状況に応じた創意工夫により、令和3年度の財団全体での施設入場者・事業参加者数(オンライン参加者数を含む)は、コロナ禍以前と同水準の約91万人まで回復することができた。このうち、野村萬斎が芸術監督を務める集大成の年度となった世田谷パブリックシアターでは、7月の『森 フォレ』や、12月の『彼女を笑う人がいても』、2月の『マーキュリー・ファー Mercury Fur』などは全国各地でも上演し、好評を得た。また、年度当初の休館を経ながらも、その後の美術館、文学館等での展示は予定どおり開催することができた。さらには、区立小学校の4年生に美術館での展示を楽しんでもらう「美術鑑賞教室」は、令和2年度は全校で取りやめとなったが、令和3年度はほとんどの学校で来館が実現できた。また、国際施策推進のため令和2年度に新たに発足した国際事業部の事業参加者数は、せたがや国際交流センターの入場者を含め、発足初年度の倍以上の約5千人に達した。そのほか、休館に伴うアテンダント業務受託事業者への補償費用やアルバイト職員への休業手当の支払い、財団運営の基盤となる職員のサービス環境の整備などに取り組んだ。

財務面では、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」(以下「認定法」という。)に定める公益目的事業比率(注)は概ね99%であった。損益は、経常収益が25億4,272万余円、経常費用が25億1,862万余円で、当期経常増減額は2,410万余円の増となった。

コロナ禍による影響は、今後も継続するものと思われるが、財団は、区や区民、利用者、関係団体等と連携し、文化・芸術が持つ力を最大限発揮すべく対応を図り、区民、利用者の支えの一助となるように取り組んでいく。

(注)公益目的事業比率:公益法人の活動全体における公益目的事業活動の割合がその費用額において、50%以上であることを求めるもの(認定法第15条)

各事業部の事業参加者・施設入場者数の推移(人)

年度	生活工房	パブリックシアター	音楽事業部	国際事業部	美術館	文学館	合計
令和 3(2021)	212,399	147,748	2,608	5,047	276,315	270,977	915,094
令和 2(2020)	44,163	100,974	3,189	2,214	151,349	165,620	467,509
令和元(2019)	113,845	228,234	5,331	—	259,088	252,502	859,000
平成 30(2018)	132,017	220,974	16,158	—	302,460	267,931	939,540
平成 29(2017)	135,222	225,035	8,392	—	373,408	172,363	914,420

(オンライン参加者数を含む。世田谷アートタウン「三茶 de 大道芸」は含まず)

(2)各事業部事業

《世田谷文化生活情報センター》

① 生活工房

生活工房では、「暮らし×デザイン」を柱に、文化を幅広い視野で捉え、展覧会、ワークショップ、セミナー等を開催している。令和3年度は前年に続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けたが、対面とオンラインを効果的に使い分けて事業を継続するとともに、講座の記録映像を制作、公開することにより、来館が難しい層に対しても情報発信に努めた。提携事業として、世田谷文学館、東京工芸大学、一般財団法人NHK放送研修センターとの共催事業を行った。

施設運営では、4月25日～5月31日が臨時休館となったほか、感染拡大の状況に応じた世田谷区の方針に従い、定員や利用時間、利用内容の制限を行ったが、年間を通じて感染予防対策を徹底し、区民が安心して施設を利用できるよう努めた。

公1-2「文化芸術の啓発、体験に資する展覧会」

「大平農園と畑のレシピ帖展」では、世田谷区内に400年以上続く農家の歴史や、豊かな四季、土と食卓とのつながりを紹介した。「安西水丸ポスター展」は、世田谷文学館で開催した「イラストレーター安西水丸展」と連動し、ポスター作品に特化した展示で多くの来場者を迎えることができた。東京工芸大学・色の国際科学芸術研究センターと共催した展覧会「色覚を考える ヒトと動物の色世界」では、アートとテクノロジーを融合させた体験型の展示を通じ、夏休み中の子どもたちを始め幅広い層に、色覚の多様性を伝えた。「アメリカンイズ since 1920s 暮らしと時代を映す玩具展」では、キッズデザインの視点で収集された1920～80年代のフィッシャープライストイズ製品を中心に、戦争の影を色濃く映す同時代の日本の玩具も展示した。令和元年、世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門を受賞したアーティストによる展覧会「日本今ばなし きいろいカラス」は、外出できなくなった人々が手紙を通じて交流する絵本の原画とあわせ、創作の過程を展示。会場内の「100年後に生きる人に宛てた手紙」のコーナーには、200通を超える手紙が寄せられた。

そのほか、生活工房ギャラリーの一隅に常設展示コーナーを設置し、区内で収集した8ミリフィルムのアrchive「世田谷クロニクル」から、月替わり上映を通年行った。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

前年度、感染拡大により予定が延期になったワークショップ「14歳のワンピース」の撮影会を行い、参加者は写真家とのセッションで14歳の「今」を記録した。夏の子どもワークショップは、展覧会「色覚を考える ヒトと動物の色世界」の関連イベントとして実施。展覧会をより楽しく体験できるよう、子ども向けガイドブックを作成したほか、ワークショップでは、偏光板とセロハンでステンドグラスを作り、動物の色世界を学んだ。区内の読み聞かせ活動団体からなる「世田谷おはなしネットワーク」との共催イベント「おはなしいっぱい」は、感染拡大が続く中、完全オンラインでの開催となり、生活工房は団体への会場提供や技術支援を行った。

若い世代に向けた、「仕事」や「働くこと」について考えるワークショップ「どう？就活 自分と仕事の出会い方」には、想定より幅広く10代～40代の参加があり、対話を通じてじっくりと個々の価値観を見つめ直す時間となった。セミナー「暮らしの創造 団地文化から考える公・共・私」は、各分野で活躍する講師による様々な角度からの語りを通じ、「住まう」ことの本質を浮かび上がらせた。

8ミリフィルム映像のアーカイブを活用する「穴アーカイブ」では、常設展示コーナーの設置に加え、新たに、目の見える人と見えない人が、音声のない8ミリフィルムの映像を鑑賞するオンライン・ワークショップ「エトセトラの時間」を実施した。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

新型コロナウイルスの影響が続く中、事業や施設に関する情報を的確に届けるため、ホームページや館内掲示等情報の更新に努めた。また、ホームページでは、「生活工房マガジン」「レポート」「生活工房×ひと」等の記事を充実させた。紙媒体では、情報誌「季刊 生活」と、年次報告書「アニュアルレポート」を編集、発行した。そのほか、新聞、ラジオ等媒体への情報提供や、SNSの情報発信に力を入れた。事業ごとにウェブのアクセス解析を行い、より効果的な情報発信に生かした。

展覧会「色覚を考える ヒトと動物の色世界」や、ワークショップ「どう？就活 自分と仕事の出会い方」、セミナー「暮らしの創造 団地文化から考える公・共・私」を記録した動画を新たにウェブで公開した。過去に公開した「日常を見限らない」「哲学対話 PARA SHIF」の記録映像はその後もSNS等を介して広がり、視聴回数は多いもので2万回を超えている。

公1-8「文化芸術の拠点施設の管理運営」

指定管理者として、セミナールーム AB、ワークショップルーム AB の管理運営を行った。新型コロナウイルスの感染状況により、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が断続的に適用される中、世田谷区のガイドラインに沿って施設を運営し、施設利用に関する情報を随時更新、提供した。また、施設が世田谷区のワクチン集団接種会場として使用されるにあたり、その運営に協力した。

さらに、令和4年度、世田谷文化生活情報センターが開館25周年を迎えるのを機に、駅から施設までの案内サインや、館内外の表示を総点検し、課題を整理して関係各機関との交渉、調整を行い、改善を図った。

公2-1「市民活動の支援及び振興に関する事業」

「市民活動支援コーナー」の運営団体との委託契約が年度末をもって満了となるため、次期5か年の運営団体の公募、選考を行った。また、市民活動支援コーナーの利用団体が日頃の活動成果を発表する「市民活動支援コーナーの日々展2021」を開催した。市民活動支援講座は、身近な市民活動の話聞くシリーズ「ちかくのとーく」としてリニューアルし、キックオフイベントを開催して次年度につなげた。区民に親しまれている「世田谷アートフリマ」は、前年度に続き中止となったが、代替事業としてゆかりの作家を講師に「世田谷アートフリマ presents 1DAY ワークショップ」を開催した。

② 世田谷パブリックシアター

世田谷パブリックシアターは、1997年に開場し、主劇場(世田谷パブリックシアター)とシアタートラムの2つの劇場と大小3つの稽古場を中心に、「新しい作品とレパトリーの創造」、「国際的な共同制作」、「地域や学校その他の区内施設との連携」、「普及啓発・人材養成事業」、「国内の公共劇場との連携」等を柱に、国内外に発信する創造型の公共劇場として活動している。令和3年度途中には、芸術監督を20年間務めた野村萬斎から白井晃に交代することが決定し、大きな節目の年となった。

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

国内演劇創作事業として、主劇場で6本、シアタートラムで1本の作品を上演した。主劇場では6月に「狂言劇場 その九」『法螺侍』『鮎』、7月に『森 フォレ』、12月に『彼女を笑う人がいても』、2月に『マーキュリー・ファー Mercury Fur』、「MANSAI◎解体新書」を上演。トラムでは11月に『愛するとき 死するとき』を上演した。『森 フォレ』、『彼女を笑う人がいても』、『マーキュリー・ファー Mercury Fur』、『愛するとき 死するとき』は全国各地でも上演し、好評を得た。

上演作品はいずれも意欲作であり、高い評価をいただいた。『森 フォレ』の演出により上村聡史が第29回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第56回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞した。また、同作品の音楽を担当した国広和毅、美術の長田佳代子がそれぞれ第29回読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞した。さらに瀬戸山美咲作『彼女を笑う人がいても』は第66回岸田國土戯曲賞最終候補作品となった。

芸術監督企画「狂言劇場その九」は、野村万作・萬斎・裕基の“狂言三代”による上演として大きな注目を集めるとともに、字幕タブレットや音声ガイドなど、バリアフリーのための取り組みを全公演において実施した。『愛するとき 死するとき』は、空間を存分に生かし、音楽要素を重視した斬新な上演となった。コロナ感染症が急拡大した時期に上演された『マーキュリー・ファー』では、感染症対策をさらに徹底するとともに、アンダースタディ(代役)を準備するなどの工夫を凝らすことで舞台成果を最後まで観客に届けることができた。

年度途中で芸術監督の交代が決定したことから、恒例の「MANSAI◎解体新書」は、時期を2月に移し、「『檄』～初心不可忘～」と題したトークと「戯曲リーディング『ハムレット』より」を組み合わせた事業として再構成し、野村萬斎芸術監督の20年間を振り返る企画とした。

夏休み期間には、“こどもプロジェクト”として、春風亭一之輔プロデュースによる寄席企画『せたがや夏いちらくご』を昨年に続いて実施。また、前年度に新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた『悟空』、『日野皓正 presents “Jazz for Kids”』を、それぞれ実施形態を工夫しながら開催にこぎつけることができた。

また、前年度は中止が相次いだダンス/音楽/演劇の提携公演についても、感染症対策を徹底し、ほぼ計画通り実施することができた。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

コミュニティプログラムや学校プログラムは、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により大幅な事業見直しを余儀なくされたが、これまでに蓄積された経験・知見を活用し、事業内容を絶えず検討しつつ事業を継続した。

開場以来の区民参加型企画「地域の物語」は、「老い」と「ケア」に焦点を当て、新しいコミュニティシアターの形を探った。2018年度から続けてきたシンガポールとの国際交流も渡航制限などの影響で中止せざるを得なかったが、オンラインでの意見交換など、新しい形での交流の可能性を探る試みを始めている。また、学校でのワークショップなど、劇場外での事業は、実施回数で前年度からは回復の兆しが見えたが、コロナ以前の水準には遠く届いていない。

高齢者施設や障害者施設を訪問して行う「移動劇場@ホーム公演」は、前年度に引き続き訪問上演はほぼ中止せざるを得なかったものの、特製DVDを作成して配付した。また、区教育委員会からの受託事業「古典芸能鑑賞教室」も1回あたりの参加人数を減らし、回数を増やして実施するなど、

工夫を凝らして事業をおこなった。コロナ禍の長期化によって人と人が触れ合う機会が失われる中で、教育普及活動へのニーズは大きくなっている。「密」や身体的接触を避ける工夫を重ね、新しい実施形態を今後も模索していく。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

開場以来、区民が舞台に立つ機会として恒例となってきた「フリーステージ」は新型コロナウイルスの影響で無観客での実施となった。また、若手実演家育成事業として新たに「ハッチアウトシアター」を立ち上げ、ワークショップと上演を組み合わせた新しい形を試みた。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

秋の恒例事業となった、世田谷アートタウン「三茶 de 大道芸」は、新型コロナウイルスの影響で商店街等屋外での開催を断念し、シアタートラムにおいて観客数を制限して開催した。また、共催する商店街と密接に協力して非接触型のスタンプラリー等を実施することで、密を防ぎつつ地元の魅力を発信する試みを行った。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

ホームページや広報紙誌、マスコミ媒体等を通じて、劇場の活動を広く区民等に発信した。また、学芸事業の紹介冊子『CarroMag(キャロマグ)』も発行した。

公1-7「国際交流のための文化芸術事業」

新型コロナウイルスの影響を受けつつも、2本の国際共同制作作品を創作した。日仏国際共同制作ダンス公演『ゴールドシャワー』は2020年から制作を開始した作品であるが、待望の日本初演を実現した。同作品の成果により、磨赤児が第76回文化庁芸術祭賞大賞を受賞した。現代サーカスの日仏国際共同制作『フィアース5』は、世界的アーティストとの共同制作による日本の若手サーカスアーティストの育成事業としても大きく貢献した。

③ 音楽事業部(せたおん)

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

新型コロナウイルスの影響は被ったが、状況に合わせて実施した。

「せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート」は、全員での合奏ができず、セクションごとのアンサンブルによる公演を行った。演奏技術の向上という点からいえば、むしろ利点とも考えられるような成果をあげた。「室内楽シリーズ」のソプラノ砂川涼子によるリサイタルは、ピアノに指揮者の園田隆一郎を迎え、モーツァルト歌劇の aria、また数々の作曲家による朝や夜をテーマにした歌曲を聴かせた。当初観客数を半数に制限され、その後に制限解除となったため、現場で多少の混乱を生じたが、充実した内容のものとなった。

「室内楽シリーズ」のもう一枠をあてた『異分野とのコラボレーション』は、“山と音楽”がテーマ。法螺貝、ヨーデル、アルプホルンなど多彩な演奏家が揃い、企画の池辺晋一郎音楽監督、ゲストの石丸謙二郎のトークも弾んだ。日本の伝統音楽を紹介する「シリーズ和・華・調」、今年度は沖縄伝統芸能の特別公演で、演奏者だけでなく、立方も招いた。会場定員が半数になったため、1日2回の公演となったうえに、出演者に新型コロナウイルス陽性者が出て、急遽1名欠けるという難条件になったが、見事に公演を務め、好評を博した。

「連携コンサート」では、世田谷区が連携・協力に関する包括協定を結んでいる川崎市の「かわさきジャズ 2021」に音楽家を派遣した。また、編集を担当した「せたがや音楽通信」に由来する展覧会が世田谷美術館で企画され、関連して独特の内容の公演を実施した。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

新型コロナウイルスの影響により、事業数や内容を絞っての活動となった。

宮川彬良スペシャル・プロデューサーの「せたがや音楽研究所」は、今年度も出演者となる合唱団の公募を見送り、会場の定員を半数にして開催した。テーマとして“昭和歌謡”を取り上げ、サブタイトル通り、～ギューツとなって、ドーン！～と中高年層の心を捉えた。

「せたがやジュニアオーケストラ」は、前半はオンラインによるレッスンが中心となり、対面練習再開後も、人数や換気による制約を受けながらの活動となった。そうした状況を逆手に取り、個々の技量を向上させることに力を注いでいった。夏には、セクションごとに小編成のアンサンブルを組み、世田谷美術館講堂で、展覧会の内容に合わせた発表公演を実施。3年ぶりの開催となった「定期演奏会」では、ミューザ川崎シンフォニーホールという、オーケストラ演奏には理想的な会場を得て、延期が続いていた10周年記念委嘱作品『星をかぞえる』の世界初演を実現した他、名曲の数々をのびのびとした表現で聴かせ、聴衆を魅了した。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

新規企画「世田谷アーティスト支援企画」は、副題を『Discovery Setagaya Sounds』として、新型コロナウイルスの影響により活動がままならない世田谷の音楽家に独自の公演を制作する機会を提供し、区民に向けて発信していくことを企図している。第1回を飾ったのは、井上鑑。前半は弦楽器2人、後半は打楽器2人との共演で、ガラリと内容を変えたステージで楽しませた。また、音楽に関心のある若い世代を対象に無料でリハーサルを公開し、エールを送った。

「世田谷区民音楽団体の支援」は、例年と同じく、世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団の3団体の活動を側面から支えた。新型コロナウイルスの影響により、練習や演奏会が中止に追い込まれたり、厳しく制限されたりする状況が続いたが、情報を共有しながら、各団体それぞれに工夫を凝らし、活動を継続させることができた。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

「まちかど・まちなかコンサート」では、人気の高い「コトコトさんのドレミ図書館」を実施した。新型コロナウイルスの影響により、時期を延期し、定員を絞っての実施となった。より安全・安心を高めるため、内容を更新し、4、5歳向けと対象年齢を特定したが、募集開始早々に満席となる人気は変わらず、公演後の満足度の高さも変わらなかった。

新型コロナウイルスの影響により、延期を繰り返していた「せたがやミュージック・フェス in 北沢」が実施となった。発表の機会がなかった区民音楽団体、演奏会を楽しむ機会がなかった観客、それぞれのニーズを汲んで企画されたものだけに、舞台にも客席にも笑顔が広がり、参加した人みな喜んでいく様子が見えられた。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

「音楽事業部広報」活動は、演奏会など事業の変更に対して、丁寧に対応していった他、告知方法についても柔軟に変化させた。演奏会に足を運べない人たちのために、新しく YouTube チャンネルを作り、部分的にはあるが、公演の記録を公開し始めた。

世田谷区からの受託で発行する「せたがや音楽通信」は休刊が続いているが、この冊子のコラムをきっかけとした展覧会が世田谷美術館で開催され、関連する公演の実施に繋がった。

④ 国際事業部

公2-1「市民活動の支援及び振興に関する事業」

せたがや国際交流センター(Crossing Setagaya)は、主に在住外国人への多言語での情報提供、相談窓口の案内、多文化共生や国際交流・国際貢献活動をしている地域活動団体の紹介などを行う施設として運営した。

外国人と日本人の交流を目的とする事業として「にほんご交流会」を3回、「まち歩きツアー」を1回実施した。

外国の文化や生活の違い、価値観の違い等を知ることができる「多文化理解講座」を、各回テーマを変えて8回実施した。

区や地域団体、区内大学との連携事業として、「せたがや国際メッセ」「国際交流 in せたがや」「日米オンライン交流」「絵本の読み聞かせ会」などのイベントを実施したほか、せたがや国際交流センター展示コーナーを活用した団体や学校の紹介、ホームページやSNSなどによる広報の連携も行った。

「国際事業部広報」活動は、ホームページやSNS、メールマガジンなどによる電子媒体による発信、情報ガイドやニュースレターによる紙媒体の発行を行った。これらに加え、ケーブルテレビ、YouTubeによる事業紹介など多様な媒体を利用して情報発信を行った。

《世田谷美術館》

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

令和3年度は、コロナ禍で展覧会事業が中止もしくは延期となった前年度の経験を踏まえ、すべての企画展について入場者数の定数管理がしやすいオンラインの日時指定制を導入し、来館者の安全を考慮した運営を行った。前年度から継続の「アイノとアルヴァ 二人のアアルト」(3月20日～6月20日)は、会期途中で新型コロナウイルスの影響による約1か月間の臨時休館があったが、「塔本シスコ展」(9月4日～11月7日)、「グランマ・モーゼス展」(11月20日～2022年2月27日)は予定通り開催できた。2022年3月26日に開幕した「ピーターラビット™展」(2022年3月26日～6月19日)は次年度に継続。

所蔵作品を活用したミュージアム コレクションでは、前年度の企画展として予定していた内容を、所蔵品を中心に再構成した「驚異の三人!!高松次郎・若林奮・李禹煥」(4月17日～6月13日)が、会期中に臨時休館が1カ月ほどあったが、展示替えも行き、予定していた作品すべてを紹介できた。また、前年度からの延期で開催となったミュージアム コレクション特別篇「グローバル化時代の現代美術」(7月3日～8月22日)は、大型の現代美術作品を1,2階両展示室を使って大々的に展示。そのほか「それぞれのふたり 大沢昌助と建畠覚造」(9月11日～11月21日)、「ART /MUSIC」(12月4日～2022年4月10日)を開催した。3分館も前期・後期で展示替えを行い、通年で各作家の様々な作品を楽しめる展覧会を開催した。

作品収集についても、これまでの美術館の活動を通じて培われた人脈や作品の繋がりによって、多くの貴重な作品の寄贈があり、「紀要」でも、学芸員らの日頃の調査研究が発表された。「年報」では、前年のコロナ禍でこれまでにない状況下に置かれた美術館の運営、活動が記録としてまとめられた。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

「美術大学」は、前年度は中止したが、令和3年度は、特別セミナーとしてオンラインと対面いずれかを受講者が選択できる形で講義のみ実施した。美術大学受講者OBを対象にしたステップアップ講座も感染症防止対策をして開催を行うほか、「自宅で毎日3分クロッキー」など一部の内容は、一般対象としてホームページ上でも展開した。また恒例の夏休みの子どもの向け企画「ナイトツアー」は、前年度は美術館側の一方向から配信するオンラインのみのプログラムであったが、令和3年度は、個人での来館や、参加者同士のオンライン上の交流ができるプログラムに発展させた。

プロムナード・コンサートは前年度に引き続き人数を大幅に減らし開催し、ポッドキャストで当日の演奏の一部と出演者と監修者との対談を配信した。「100円ワークショップ」は家で工作が楽しめるキットをボランティアが作成して販売し、宮本館では、夏休みに感染症対策を考慮した個人や家族で楽しめる企画を実施した。

前年度の「小学校美術鑑賞教室」はコロナ禍で全校来館できなかったが、令和3年度は、ほとんどの小学校が来館できた。展覧会の日時指定制が導入されたため、児童の来館時間を早めたり、児童が分散して見学できるための工夫を行いながら実施した。「インターン実習」は、各学生の事情に合わせ、来館またはリモートで勉強会に参加してもらい、可能な範囲でリモートを中心に小学校での出張授業を行った。

コロナ禍によって延期されていたイタリアの演出家による能の上演「夢の解剖－猩々の乱」も人数を絞って実施することができ、上演後に有料映像配信も行った。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

これまで「絵画展」、「写真展」と隔年で開催してきた区民展は、「絵画展」が前年度コロナ禍の影響で中止となったこともあり、令和3年度は絵画と写真、両方を併せた「世田谷区民絵画・写真展」として実施。従来から一新して、鑑賞者が自身の目で作品を楽しんでもらうために、順位付けの賞を廃止した。また、来場者が集中しないように平日のみの開催とし、代わりにオンライン展覧会として、審査員による講評と併せて、出品者のコメントとともに各作品を紹介する動画を期間限定で配信した。

区民ギャラリーの利用についても、コロナ禍のなかで館と利用者が共通した安全意識を共有しながら安定的な運営を行った。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

コロナ禍の各個人の事情で、ボランティアの参加を控える市民も多かったが、ホームページなどで当館の活動に興味を持った新規のボランティアも加わり、100円ワークショップのキット作成や美術鑑賞教室などで活躍した。今は参加できないボランティアも、また機会が訪れた時にいつでも参加しやすいよう、展覧会毎に勉強会を対面とオンラインを併用して行い、交流を続けている。

「ピーターラビットTM展」では、展覧会開幕前から近隣の大型商業施設である玉川高島屋 S・C や、成城コルティとタイアップを行い、美術館と地域との交流を行っている。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

友の会と連携したニューズレターの発行などの紙ベースの情報提供のほか、Webを活用した情報の重要性が高まっており、当館のホームページ、公式ツイートおよびフェイスブックなどでタイムリーな情報発信を行った。また、展覧会紹介の動画コンテンツなどを制作し、来館を促す目的だけでなく、臨時休館中や、コロナ禍で出かけづらい方へも作品を楽しめる内容のデジタルコンテンツを配信した。

《世田谷文学館》

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

令和3年度の企画展は「イラストレーター 安西水丸展」「描くひと 谷口ジロー展」の2本を実施した。「安西水丸展」は当初4月24日～8月31日会期でスタートしたが、オープンの翌日から緊急事態宣言により休館を余儀なくされた。その後、関係各所のご厚意を得て急遽、9月20日まで会期延長が決まった。展覧会は区内・近隣のみならず全国からご来館いただくことが常であり、楽しみに待っていてくださった方々に少しでもご覧いただける機会をつくることができたことは喜びだった。「谷口ジロー展」も当初は4月からの会期予定で準備していたが、度重なるスケジュール調整を経て、会期もできるだけ長期に設定して実施した。

2つの企画展は、独自の世界観を築きあげた作家を紹介するもので、数年にわたり続いている不安な日常の中、ゆるぎなく自己の表現を築き上げた作家の世界観をお届けすることで、文化がもたらす安定・信頼を示すことができたと思っている。

コレクション展前期は、令和元年度に寄贈を受けた昭和文学を代表する作家・石川淳の貴重な原稿や執筆メモ、交流した文学者、研究者からの書簡などを紹介する「受贈記念 夷齋先生・石川淳」を開催した。後期は令和2年度25周年を迎えた当館の10万点を超える収蔵品のなかから選りすぐりの資料紹介を「セタブン大コレクション展」と銘打ち実施した。令和3年度は「PART1 ふかくこの生を愛すべし」で約200点を資料にまつわるエピソードとともに紹介、あらためてここまで収集保存に関わった方々への感謝の念を強くした。本展の図録「世田谷文学館コレクション図鑑」は専門家からの寄稿、インタビューに加え、学芸員全員で各資料紹介を執筆し、館の記念事業としてふさわしい事業となった。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

当館普及事業の要である「どこでも文学館」は、令和3年度は「ほんのむしプロジェクト」をスタートした。地域と密着した事業展開を軸に、出張展示や多彩なワークショップを企画した。出張展示は安定した活動ができ、例年の区内学校・図書館・区民センターほか、全国への貸出しを開始し、山梨県立文学館ほか展示が実現した。ワークショップは前年度同様オンラインでの実施が多くなったが、当館も配信設備を含め参加しやすい環境を整え、運営もよりスムーズになった。一方、感染症対策を徹底してリアルに開催した芦花小学校でのワークショップ「もっと朗読を楽しもう～プロの読み方を聞いてやってみよう～」など、対面ならではの感動・充実感があったことも事実である。今後もリアル・オンライン双方向で、利用者により良い形で提供できるプログラム開発を続けていれどと考えている。文化庁「地域と協働した博物館創造活動支援事業」として開始した「ほんのむしプロジェクト」だが、助成金

募集が令和4年度から中止となり、やむなく本事業もいったん休止とせざるを得ないが、確立したプロジェクトのアイデアは次年度にも引継いでいく。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

区民の創作活動の発表の場として、詩・短歌・俳句・川柳・エッセイ作品を募集する第36回「世田谷文学賞」を実施した。応募者年齢も最高齢98歳、最年少14歳という幅広い年齢層から合計770作品の応募があった。上位入賞作品は冊子「第36回世田谷文学賞 受賞作品集」等に掲載した。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

令和3年度は、文学館の広報活動がより活発化した年度ともいえる。ホームページをリニューアルし、「セタブン」の名前も知られるようになり、館内の活動だけではなく、館からの発信にも注力し始めたことは特筆すべきことである。

当館10万点を超える資料から主要なコレクションをひろく情報提供するホームページ検索では、「植草甚一関連資料」を加え、映画監督「成瀬巳喜男関連資料」も公開準備が整っている。

近年、力を入れているSNSを活用した情報発信については、当館ツイッターのフォロワーが1万1千人を超え、記念イベントも行った。「セタブン大コレクション展」と連動して資料紹介を定期的に行い、文学館の存在を知らない方々にも資料の魅力を伝える発信を続けた。

また、25周年記念イベントとして実施した「ほんとおラジオ」も新しい発信のひとつである。1階のライブラリーは平成27年度「ほんとお」という名称でリニューアルし、ユニークな書棚作りやキッズコーナーの設置などで利用者も大幅に増えたが、次の試みとして「ほんとお」を拠点として発信するラジオ番組制作を行った。当館が様々な事業の中で交流いただいている多彩なゲストをお招きし、文学・映画・音楽・美術などジャンルを超えたお話を繰り広げ、世田谷文学館ならではのコンテンツづくりを目指している(令和4年度も継続)。

今後もリアルとオンライン双方向で、館での活動のほかにも、さまざまな媒体をとおして「セタブン」発信の文学の魅力をお伝えしていく。

2. 事業実績

(1) 世田谷文化生活情報センター 生活工房

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所	
デザイン・ アートの展 示	生活工房ギャラリー2021	地域の暮らしから異文化理解まで、幅広いテーマの展示事業を、生活工房ギャラリーで実施。関連してトークイベントやワークショップも開催。						
	①大平農園と畑のレシピ帖展	【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 世田谷区尾山台に400年続く有機農家の畑を通して、世田谷の農業の歴史や四季・土壌の微生物・動植物・人の円環を考察し、地域の食文化を紹介した。	(3月2日)～ 6月27日	無料	4,113 (総計: 7,476)	3,000	生活工房ギャラ リー	
		ドキュメンタリー上映会 上映作品:『大平農園 401年目の四季』『根ノ国』『みんな生きなければならない』 講師:森信潤子	4月10日、11日	無料	85	60	ワークショッ プ ルーム	
		生き物の「色覚」をテーマにした、アートとテクノロジーの融合による体験型展覧会。人や動物がどのような「色の世界」を生きているのか、色覚多様性とその仕組みについて理解を深めるインタラクティブな作品が並んだ。子どもたちがより楽しく体験できるよう、ガイドブックも作成した。(共催:東京工芸大学)	7月24日～ 8月29日	無料	54,019	3,000	生活工房ギャラ リー	
		VR体験	8月1日、8日、14日	無料	767	—	生活工房ギャラ リー	
		ギャラリートーク 講師:野口靖	8月1日	無料	16	—	生活工房ギャラ リー	
		レクチャー「『色』という感覚 多様な色覚を楽しむために」 講師:川端裕人	8月8日	無料	24	40	オンライン	
		ワークショップ「不思議なステンドグラスをつくろう」 講師:陳軍	8月14日	1,000	29	30	セミナールーム	
		子どもの玩具をとおして外国の暮らしや文化を伝える展覧会。造形教育学の視点から世界の玩具を収集する春日明夫氏のコレクションより、1920年代から80年代にかけてのアメリカの玩具約150点を紹介した。	9月7日～12月19日	無料	42,887	3,000	生活工房ギャラ リー	
		③アメリカン・トイズ since 1920s 暮らしと時代を映す玩具展	レクチャー「アメリカ玩具とキッズデザインの100年」 講師:春日明夫	10月3日	500	46	50	セミナールーム
		ワークショップ「たのしくダンスするハンペルマン人形をつくろう」 講師:春日明夫	11月7日	500	62	80	セミナールーム	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 18
デザイン・ アートの展 示	④日本今ばなし きいろい カラス	第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”生活デザイン部門を受賞した、美術家・イラストレーターの椎木彩子による展覧会。受賞記念展(2020年開催)で発表した、手紙を介したワークショップの成果を発展させて絵本を制作し、そのプロセスや原画を展示紹介した。	4年1月8日～ 3月6日	無料	19,897	2,000	生活工房ギャラ リー
		ワークショップ『『きいろいカラス』のアニメーションをつくろう!』 講師:椎木彩子	4年2月6日	500	15	20	セミナールーム
		アーティストトーク「お家で話す」 講師:椎木彩子、村上慧	4年3月6日	無料	11	10	生活工房ギャラ リー
	⑤生活工房常設展示 「生活工房アレコレ」	生活工房で実施した展覧会やワークショップを記録した写真、映像、資料などを公開し、閲覧できる可動的なコーナーを新設。本年度は穴アーカイブで収集・公開している8ミリフィルムを毎月8日に入れ替えて上映した。	通年	無料	59,225	2,000	生活工房ギャラ リー
	提携展示	他の施設や団体等との連携により企画展を開催する。施設利用の活性化を図るとともに、「生活デザイン」に関する多様な事業を展開する。					
	①安西水丸ポスター展	世田谷文学館で開催された「イラストレーター 安西水丸展」との連動企画。総数500点以上の原画や資料を展示した同展の一環として、生活工房ではポスター作品約25点を展示した。(提携:世田谷文学館)	7月3日～7月18日	無料	10,643	1,000	生活工房ギャラ リー
②HIBIGEIデザインワーク ス展覧会 ～人生を変えるシゴトの見本 市	【新型コロナウイルスの影響により中止】(開催計画 12月) 障害のある人が描いた絵画やイラストを「日々の芸術」と名付け、編集・デザインし、社会価値へと変えていく「HIBIGEI」のデザインワークを紹介する展覧会。(提携:株式会社ふくしごと)	—	—	—	1,000	生活工房ギャラ リー他	
ワーク ショップ・ 講座	セミナー・ワークショップ シリーズ	新たな視点から生活を見つめ、学びや気づきをもたらすセミナー・ワークショップのシリーズ。 日本人のライフスタイルの変化と深く関わってきた団地の歴史と文化を多様な視点からひも解く連続セミナー。 1日目: 「団地概論」 講師:照井啓太 「メディアとしての団地」 講師:大山頭 2日目: 「団地と街と暮らしの関係」 講師:千葉敬介 「団地がつくりだした地形」 講師:饗庭伸 3日目: 「団地の共同体と思想」 講師:原武史 「団地と地域社会圏」 講師:山本理頭	4年2月13日、 26日、27日	各日4,000	1日目:25 2日目:12 3日目:30	70	セミナールーム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 19
ワーク ショップ・ 講座	②穴アーカイブ2021	世田谷区民から提供いただいた8ミリフィルム84巻の映像を公開中のウェブサイト「世田谷クロニクル」。映像の利活用の一環として「せたがやアカブの会」をハガキのやりとりによるリモート開催したほか、目の見える人と見えない人が一緒に映像をみるオンライン・プログラム「エトセトラの時間」を新規に開催した。	6月8日、8月7日、 10月8日、12月8日、 4年2月8日、 2月23日	無料	44	40	オンライン
	③GAYA(穴アーカイブ アウトリーチ)	東京都、アーツカウンシル東京、NPO法人remoとの4者共催で開催。ウェブサイト「世田谷クロニクル」の映像を「みる」「はなす」「きく」オンライン・ワークショップの参加者を募り、通年で計7回実施。ワークショップの成果や記録はオンラインでも公開・発信した。	通年	無料	延44	100	オンライン
	朗読講座「豊かなことばの世界」	【新型コロナウイルスの影響により、4/28と4年2月期は休講】 文学作品の朗読を通じて「ことば」のもつ力や自分自身の表現力の向上、朗読活動の一助となる機会を提供することを目的とし、(一財)NHK放送研修センター日本語センターとの共催により実施した。	4月、7月、12月	20,800～ 18,800	延508	240	セミナールーム
子どもワー クショップ	子どもワークショップ2021	幼児から中高生を対象に、デザインやコミュニケーションの体験などを通して、創造性を育む機会を創出する。					
	①14歳のワンピース(撮影会)	ファッションデザイナーによる実践的ワークショップ。前年度のワークショップを経て、仕立て上がったワンピースを着て撮影会を行う。 講師：飛田正浩、撮影：池田晶紀	4月25日	4,000	11	15	ワークショップ ルーム
	②科学とデザイン	日常を科学やデザインの視点から観察・実験・考察するワークショップを、「色覚を考える展」の関連企画として実施した。 ワークショップ「不思議なステンドグラスをつくろう」 講師：陳軍	8月14日	1,000	29	30	セミナールーム
	③おはなしいっぱい <オンライン開催>	幼児から大人まで楽しめる朗読、素話、パネルシアターなど、区内30団体をネットワークする「世田谷おはなしネットワーク」によるお話し会。活動団体のネットワーク構築と活性化を支援する。(共催：世田谷おはなしネットワーク)	8月25日～27日	無料	1,054	1,460	オンライン
④若年層向けセミナー 「どう？就活 自分と仕事の 出会い方」	就職することについて、疑問や悩みを抱く若年層に向けたセミナー。4名のゲストが「働くとは／会社とは」「仕事との出会い」などについて自身の体験を語るとともに、参加者同士が対話を重ねる時間を設け、考えを深め合った。 ファシリテーター：西村佳哲 ①「働くってなに？」 講師：本城慎之助、牟田都子 ②「会社ってなに？」 講師：東野華南子、団遊	12月4日、5日	各日1,000	①68 ②42	100	ワークショップ ルーム	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 20
人材育成 プログラム	インターン生の受け入れ	近隣大学からインターン生を受け入れ、コミュニティや交流について事業の現場体験の場を提供した。(2回)	8月	—	2	2	—
生活工房 広報	生活工房ウェブサイトの運営	生活工房の施設案内、事業予定、募集情報、関連ブログなどを掲載し、情報を発信した。SNS(Twitter、Facebook、Instagram)と併せ、効果的に広報を展開した。	通年	—	—	—	—
	イベント情報紙の編集・発行	生活工房プログラムの四半期毎のスケジュール、事業内容を紹介する情報紙を発行した。(4回)	4月、7月、10月、 4年1月 発行	—	各10,000 部	各10,000 部	—
	生活工房「アニュアルレポート2021」の編集・発行	年間のプログラムを記録した報告書。生活工房の活動を視覚的にわかりやすく紹介する冊子を発行。(1回)	4年4月 発行	—	1,500部	1,500部	—
国際交流・ 異文化理解 の推進	アメリカン・トイズ since 1920s 暮らしと時代を映す 玩具展 (再掲)	子どもの玩具をとおして外国の暮らしや文化を伝える展覧会。造形教育学の視点から世界の玩具を収集する春日明夫氏のコレクションより、1920年代から80年代にかけてのアメリカの玩具約150点を紹介した。	9月7日～12月19日	無料	42,887	3,000	生活工房ギャラリー
市民活動 支援	世田谷アートフリマ presents IDAYワーク ショップ	【新型コロナウイルスの影響により開催内容を変更】 区内のアーティスト、クラフト作家等に創作活動の発表、販売、及び区民との交流の場を提供する恒例イベント「世田谷アートフリマ」の特別編として、作家3名によるワークショップを開催した。	9月18日	4,500～ 3,000	15	1,000	市民活動支援 コーナー
	市民活動支援コーナーの運営	区内を中心に活動する市民活動団体の活動場所等の提供と、市民活動の活性化を図るための事業を実施。					
	①市民活動支援コーナー の運営	市民活動団体の活性化を目的に、打合せの場やプリントアウトスペースなどの場を提供。コーナーの運営は市民活動団体に委託。	通年	—	7,004	7,000	市民活動支援 コーナー
	②市民活動団体支援事業 「ちかくのとーく」	区内の市民活動団体の発展と活性化を図るための「市民活動団体支援講座」を実施。今年度から新たに「ちかくのとーく」と題し、地域の課題を解決するための活動や、世田谷ならではのユニークな試みを行うゲストを招き、その取り組みを紹介するトークシリーズを開始した。	4年1月23日	無料	会場 9 オンライン 19	50	市民活動支援 コーナー、オンライ ン
③市民活動支援コーナー の日々展	日頃から市民活動支援コーナーを利用している団体による活動の成果を展示紹介した。	4年3月16日～ (4月17日)	無料	3,115	1,000	生活工房ギャラ リー他	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
国内演劇 創作事業	芸術監督企画 「狂言劇場 その九」『法螺 侍』『鮎』	【新型コロナウイルスの影響により一部公演を定員の50%を上限として開催】 野村萬斎芸術監督によるシリーズ企画として平成15年度から継続的に行い、30曲以上の狂言作品または新作舞踊を上演してきた。今回はシリーズ九回目。野村萬斎芸術監督が定めたテーマに沿って、狂言劇場としては初登場となる『法螺侍』と『鮎』という2作品を、あらたな配役、あらたな演出で上演した。狂言の技法や発想と劇場空間を活かした演出効果を融合させながら、世田谷パブリックシアターから新たな狂言作品を発信した。(7回)	6月18日～27日	8,500～ 3,250	2,634	3,150	パブリックシアター
	上村聡史演出作品 『森 フォレ』	【新型コロナウイルスの影響により一部公演を定員の50%を上限として開催】 原作:ワジディ・ムワド 翻訳:藤井慎太郎 演出:上村聡史 平成26年以来上演を重ね各演劇賞を多数受賞してきた、家族をテーマに扱った作品群「血の4部作」第3弾。『炎 アンサンディ』、『岸 リトラル』につづく『森 フォレ』のキャスト陣は、11名中6名が前2作の出演者、新規キャストは5名という混合チーム。スタッフは第1作目の『炎』以来変更無く全員が続投で、本シリーズならではのカンパニーの布陣での上演となった。(17回)	7月6日～24日	8,500～ 2,500	4,995	7,599	パブリックシアター
		【愛知】日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール	7月28日	8,500	264	—	ビレッジホール
		【兵庫】兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール(2回)	8月7日～8日	7,500～ 5,000	819	—	中ホール
	小山ゆうな演出作品 『愛するとき 死するとき』	作:フリッツ・カーター 演出:小山ゆうな 出演:浦井健治 他 話題の演出家として名前の挙がる小山ゆうなと、大きな舞台への出演が続く浦井健治の初顔合わせで、シアタートラムという緊張感のある空間で、刺激のかつ緻密な人間ドラマを立ち上がらせる作品作りとなった。この2人の初顔合わせにより、トラムという空間でしか挑戦できない、国広和毅によるオリジナル楽曲による音楽要素もふんだんに取り入れた上演となった。(24回)	11月14日～ 12月5日	7,500～ 3,750	4,680	3,488	シアタートラム
		【愛知】日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール	12月8日	8,800	389	—	ビレッジホール
		【兵庫】兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール(2回)	12月11日～12日	7,800	1,044	—	中ホール

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 ²²
国内演劇 創作事業	栗山民也演出 瀬戸山美咲劇作 『彼女を笑う人がいても』	演出:栗山民也 脚本:瀬戸山美咲 出演:瀬戸康史 他 現代日本演劇界の巨匠・栗山民也が次代を担う劇作家・演出家の瀬戸山美咲の書き下ろしを演出し、新たな現代演劇を創作上演。現代と1960年代を往還しながら報道の真実やマスコミュニケーションの正義を追い求める青年の姿を通して、現代社会を生きる我々が見失った情熱や日本社会の闇を強く問いかける作品となった。日本舞台芸術界を長らくリードしてきた栗山民也と、新進気鋭の劇作家である瀬戸山美咲という、世代の違う2人のアーティストが会うことによる高い芸術水準の作品創造を目指し、アーティストが互いに刺激し合い、作品創造に新たな視点が加わり、今後の日本舞台芸術界の更なる活性化と舞台芸術水準の向上に寄与する上演を行うことができた。(17回)	12月4日～18日	8,500～ 3,250	7,052	7,087	パブリックシアター
		【福岡】福岡市民会館 大ホール	12月22日	12,000～ 5,000	886	—	大ホール
		【愛知】刈谷市総合文化センター 大ホール(2回)	12月25日～26日	8,800～ 5,000	1,214	—	大ホール
		【兵庫】兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール(3回)	12月29日～30日	8,500	1,595	—	中ホール
	白井晃演出作品 『マーキュリー・ファー Mercury Fur』	作:フィリップ・リドリー 演出:白井 晃 翻訳:小宮山智津子 2015年に日本初演し、大きな芸術的成果を得た『マーキュリー・ファー』。優れた上演成果を持つ作品を、出演者を一新しつつ、初演時と同じスタッフが集結し、さらにブラッシュアップし再演した。優れた演劇作品を1回の上演で消費するのではなく、劇場のレパートリー作品として再演を重ねることで、より多くの人々に届け、後世に繋いでいく取り組みとして、日本演劇界の更なる活性化につながる上演となった。(33回)	4年1月28日～ 2月16日	8,500～ 3,250	13,516	9,450	パブリックシアター
		【長野】まつもと市民芸術館 主ホール(2回)	4年2月19日、20日	6,500～ 3,500	2,763	—	主ホール
		【新潟】りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 劇場	4年2月23日	8,000～ 2,500	769	—	劇場
		【兵庫(西宮)】兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール(4回)	4年2月26日、27日	9,000	3,017	—	中ホール
		【兵庫(神戸)】神戸文化ホール 中ホール	4年3月2日	8,500～ 6,800	841	—	中ホール
		【愛知】刈谷市総合文化センター 大ホール(3回)	4年3月5日、6日	9,000～ 7,000	4,023	—	大ホール
【福岡】福岡市民会館 大ホール(2回)	4年3月10日、11日	11,000～ 5,000	3,275	—	大ホール		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 ²³
国内演劇 創作事業	芸術監督企画 『MANSAI ◎解体新書 その参拾式 完』	【トーク】「檄」～初心不可忘～ 能や狂言などの伝統芸能がもっている技、精神、構造などを、芸術監督の野村萬斎が毎回様々なジャンルからゲストを招き、実演、トークセッションなどを通じて解き明かすシリーズの第32弾。ファイナルとして、これまで検証してきた舞台芸術表現の限らない可能性を再確認させる内容のトークとなった。	4年2月24日	5,500～ 2,750	615	450	パブリックシアター
		【パフォーマンス】戯曲リーディング『ハムレット』より 作：W.シェイクスピア 翻訳・脚色：河合祥一郎 演出：野村萬斎 『まちがいの狂言』、『国盗人』（リチャード三世より）、『マクベス』、『アテネのタイモン』など、野村萬斎芸術監督が世田谷パブリックシアターで数多く手がけてきたシェイクスピア作品を上演することで、在任中の取り組みを振り返りつつ、未来へ向けた胎動をも感じさせる公演となった。	4年2月27日	5,500～ 1,750	624	450	パブリックシアター
子どもプロ ジェクト	子どもプロジェクト2021 フォルモサ・サーカス・アート 『悟空』	【新型コロナウイルスの影響により定員の50%を上限として開催】 アジアで最も注目を浴びている現代サーカスカンパニー、フォルモサ・サーカス・アート(FOCA)の人気作を招聘予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大によって来日が困難となったことから、作品の映像上映と日本人サーカスアーティストによるパフォーマンスを組み合わせることで上演した。東京オリンピックの開催期間とも重なり、人間の身体能力と表現の可能性に人々の注目が一層集まる中、スポーツ選手をも越える身体能力の高さとノンバーバルで多彩な表現力を併せ持つ良質の現代サーカスを通して、市民が劇場のプログラムに親しみを感じると同時に、舞台芸術そのものへの関心を喚起することを目的とした。(2回)	7月28日、29日	2,000～ 1,000	517	900	パブリックシアター
		台湾×日本 現代サーカス・オンライン対談	7月24日	無料	184	—	オンライン
		プロデューサーズ対談(オンライン)	7月29日	無料	127	—	オンライン
	子どもプロジェクト2021 『せたがや夏いちらくご』	【新型コロナウイルスの影響により定員の50%を上限として開催】 古典落語を扱いつつも現代の風刺を取り入れ大胆アレンジする作風と、とっつきやすい語り口で幅広い年齢層から多くの支持を集める春風亭一之輔がプロデュース。落語、お笑い、演芸などで活躍する芸人を招くことで、寄席芸能をより身近に感じることができ、テレビ等以外ではなかなか接する機会のない、伝統的・本格的な大衆演芸の面白さ、話芸のすばらしさを伝える内容とし、多くの幅広い地域住民の高い来場者を得ることができた。(2回)	8月8日	4,000～ 1,500	575	800	パブリックシアター
	子どもプロジェクト2021 「日野皓正 presents "Jazz for Kids"」	【新型コロナウイルスの影響により定員の50%を上限として開催】 ジャズミュージシャン日野皓正をオーガナイザーに迎え、せたがや子どもプロジェクトの一環として一流のミュージシャンが集うジャズコンサートを開催し、地域住民および未来を担う子どもたちならびに音楽ファンに向け、良質な音楽鑑賞および音楽体験の機会を提供した。 従来実施していた中学生によるジャズワークショップ事業の成果発表コンサートとして計画していたが、最終年度と位置付けた2020年度のコンサートが新型コロナウイルスの影響により中止となったため、バンドの卒業生を集め、17年間にわたる事業の集大成としてファイナルコンサートを実施した。	8月15日	4,500～ 1,500	463	420	パブリックシアター

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 ²⁴
ダンス公演	ダンス提携公演／育成	<p>【新型コロナウイルスの影響により一部公演を定員の50%を上限として開催】 気鋭の若手カンパニーからベテランまで、選りすぐりのダンスカンパニーと提携し、現代演劇と舞踊を専門として上演する劇場のレパートリーの多様性を創出した。創作活動を支援しながら、演劇的な要素や、音楽、美術など、異なるジャンルのアートとの出会いを提案し、世田谷でしか生まれ得ない新しい舞台芸術の創造を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山海塾 ・ニプロール ・バオバブ ・天使館 ・キネティックアート ・プロジェクト大山 ・平山素子×本條秀慈郎×床絵美 ・OrganWorks 	通年	5,500～ 1,000	4,853	5,000	パブリックシアター/シアターラム
音楽公演	音楽提携公演	<p>区民に芸術性に優れた音楽の鑑賞機会を提供し世田谷区の文化振興を図るため、優れた音楽グループ等と提携して音楽コンサートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古武道 	通年	7,500～ 2,000	323	450	パブリックシアター
提携公演	演劇提携公演	<p>【新型コロナウイルスの影響により一部公演を定員の50%を上限として開催】 気鋭の若手から長年の実績を誇るカンパニーまで、優れた演劇作品の上演実績がある劇団・ユニット・制作会社・団体等と提携し制作的な補助、広報宣伝協力等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M&O plays ・りゅーとぴあ ・イキウメ ・チョコレートケーキ ・国際演劇協会 日本センター／地人会新社 ・SAC ・iaku 	通年	8,000～ 2,000	12,628	25,000	パブリックシアター/シアターラム
コミュニティプログラム	演劇・ダンスワークショップ	<p>地域の人々が気軽に参加できるプログラムから、深く取り組むことのできるプログラムまで、多様な内容のワークショップを実施した。</p> <p>①「単発ワークショップ」1～2日単位で気軽に演劇や劇場を体験できるワークショップ。「(デイ・イン・ザ・シアター)」(10コース24回) ②「テーマ別ワークショップ」地域の課題等に演劇的手法を活用してアプローチしたり、劇場へのアクセスが阻まれている対象を設定して実施するワークショップ。「(どこでも劇場)」(3コース9回)</p>	①4月5日～ 4年3月26日 ②8月13日～ 10月17日	①各500 ②無料	延281	512	稽古場他
	子どものためのワークショップ	<p>子どもを対象に、以下の演劇・ダンスのワークショップを実施した。</p> <p>①「夏休みWS」子どもたちが参加しやすい学校の長期休暇に合わせたワークショップ(14コース14回)</p>	7月28日～8月27日	5,000～500 ↓	延624	670 ↓	稽古場他

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
コミュニ ティプロ グラム	子どものためのワークショップ	②「世田谷パブリックシアター演劇部」年間を通じて、じっくり演劇やダンスに取り組みたい中学生を対象に、1年を通して作品をつくり発表することを前提としたワークショップを実施。作品は世田谷区立中学校演劇発表会等で発表した。(15回)	6月19日～ 4年3月28日	↑ 5,000～500	延209	↑ 670	稽古場他
		③その他単発ワークショップ「ごちゃまぜWS」	4年3月27日		12		
	地域の物語	区民を中心とした参加者たちが、現代社会が抱える課題に関連するテーマをもとに、取材をしたりする過程を通じて、自分たちの住む社会・暮らし・地域・そこに住む市井の人々について思考するワークショップを3ヵ月かけて実施。最後には、作品としてまとめあげ、シアタートラムにて広く地域の観客に向けて上演し、過去作品の上映会も実施した。(WS16回)(発表会1回)(上映会2回)	4年1月8日～ 3月21日	7,500～無料	参加者 延250 発表会 141 上映会 32	参加者 640 発表会 300	稽古場/シアター トラム他
学校その 他区内施 設との連 携プロ グラム	学校のためのワークショップ	世田谷区内の小中学校の児童・生徒・教員を対象に、以下の2つの事業を企画した。 ①『ワークショップ巡回団』:進行役やアーティストが学校へ出向き、演劇的手法を用いた演劇ワークショップを実施する。教科の学びに活かしていくために、内容は教員と相談をしながら決定した。(106回) 【新型コロナウイルスの影響により中止】 ②『先生のためのワークショップ』:小中学校の教員が授業で活用するためのヒントとなるワークショップや事業報告会を年間を通じて劇場内外で実施する。本年度は特別プログラムとして、学校の先生を対象にLGBTQをテーマにしたワークショップを行う。	①通年 ②中止	無料	①延3,732	8,250	世田谷区内の各 小中学校/稽古 場
	中学校演劇部支援	世田谷区立中学校教育研究会演劇教育研究部と連携し、区立中学校演劇部の活動支援を行った。(3回)	10月29日～31日	—	—	112	世田谷区内各小 中学校/区民会 館他
	区内施設連携プログラム	非営利の区内施設/団体に進行役を派遣し、当該施設/団体と協働して演劇的手法を用いたワークショップを実施した。本年度は、特に下馬地区におけるワークショップやコミュニティフェスティバルに力を入れた。シンガポールとの共同作業も実施した。(7コース34回)	6月3日～ 4年3月10日	無料	延540	200	世田谷区内の施 設/稽古場
	小学校古典芸能鑑賞教室 [区受託]	【新型コロナウイルスによる影響により一部中止】 世田谷区立の小学校(全校)6年生を対象に、体育館にて狂言ワークショップを実施。能狂言の発想や技能を体感し、日本固有の伝統芸能について関心を高める機会を提供した。(20回)	6月28日～ 4年3月2日	—	延4,500	5,700	世田谷区内 小 学校体育館

※ ↑↓は前後のページを含む料金や人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 ²⁶
学校その他区内施設との連携プログラム	移動劇場「@ホーム公演」	【新型コロナウイルスの影響により一部中止】 劇場へなかなか足を運ぶことのできないお年寄りや障害者が生活する区内の特別養護老人ホーム、デイ・サービス、障害者施設等へ、劇場から地域の中へ演劇を運んで上演する企画。コロナ禍の状況を受け、特製DVDを作成して各施設に配付した。2月には、施設との聞き取りを経て、コロナ禍でも安全に劇を届けることができる形態を模索、工夫しコンパクトながら誰でも気軽に楽しんでいただける『ちょこっとチャーリー』を1施設で実施した。	6月～4年2月8日	無料	DVD配付 18施設 巡回1施設 25	1,000	区内特別養護老人ホーム、デイサービス、障害者施設
研究育成プログラム	観客育成プログラム	地域住民及び観客を対象に、主催公演関連のワークショップや作品の分析・舞台芸術についての知識を深める。	6月17日～7月1日	無料	323	110	オンライン
		【新型コロナウイルスの影響によりトークのみオンライン開催】 ①世田谷パブリックシアターダンス食堂：現役のダンサーを招き、その理念やメソッドに触れるワークショップ及びトーク	通年	—	—		セミナールーム 他
	専門家育成プログラム	【新型コロナウイルスによる影響により中止】 ②舞台芸術のクリティック：舞台芸術に対し批評的な視点を獲得し、その視野を広めるレクチャー及びゼミ	4月3日～ 4年3月30日	無料	延809	330	両劇場/稽古場/ セミナールーム 他
舞台技術者人材育成プログラム	Technical Theatre Training Program 舞台技術講座	次世代を担う舞台技術者やプランナー、デザイナーを対象に舞台・照明・音響各分野で未経験者及び経験者向けの安全講座、各分野別プログラムを実施した。初級編、中級編など段階ごとのプログラムを設けている。	10月26日	3,000～500	25	250	パブリックシアター/シアター トラム
		①舞台音響入門講座	10月27日		18		
		②舞台照明入門講座	10月28日～30日		26		
		③舞台技術安全講座	4年1月28日		98		
	④安全セミナー『労働安全衛生法一部改正に伴う劇場空間における安全作業についての検証』	通年	—	—	—	—	
舞台技術支援	劇場使用者等に対して、設備等の使用講習会の実施や、プラン・オペレートや機材等の支援を行った。	通年	—	—	—	—	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
区民の表現の場の提供	フリーステージ	【新型コロナウイルスの影響により無観客での記録撮影のみ開催】 世田谷区民と劇場がともにつくりあげるゴールデンウィーク恒例企画。 世田谷区内で活動する多くの区民団体にむけ、世田谷パブリックシアター及びシアタートラムを開放し、日頃の活動の成果を披露していただく。劇場の活動を身近に感じることが出来る機会を提供することで、劇場への理解を深め、また、区内の幅広い層に向けた舞台・音楽活動活性化の推進を目指していたが本年度は無観客での記録撮影のみの実施となった。	4月29日～5月5日	—	—	2,000	パブリックシアター/シアタートラム
	ハッチアウトシアター2021 子どものためのリーディング+ワークショップ公演 『ホーム』	地域に根差した劇場として、「子どもに伝えたいこと/子どもと考えたいこと」をテーマに、『子どものためのリーディング公演+ワークショップ』を実施。若手実演家が作品を創造し上演するだけでなく、上演後に作品世界の理解をより深めるワークショップを行い、若手実演家と観客が対話し思考していく協働の場を設け、観客育成の場とし、地域社会と演劇の繋がりを模索している若手実演家たちに、作品創造の機会と手段を手渡す機会とした。また、劇場内外に「コミュニティにリンクした演劇創造」の形を提示し、地域に根差した劇場の在り方を提示することを目指した。(5回)	12月10日～12日	2,000～ 1,000	延263	300	シアタートラム
地域活性のための文化芸術事業	世田谷アートタウン2021 『三茶de大道芸』	【新型コロナウイルスの影響により規模を縮小しての開催】 三軒茶屋の活性化と地域の文化向上を図るため、地元商店街や町会等との実行委員会方式により実施する、三軒茶屋の街を舞台とした大道芸のパフォーマンス。2日間開催。新型コロナウイルスの影響により、街中でのパフォーマンスは取りやめ、シアタートラムで観客数を制限して実施。併せて、非接触型のスタンプラリー等を実施することで、密を防ぎつつ地域の魅力を発信する試みを行った。(文生センター全体事業)	10月16日、17日	無料	4,100	200,000	三軒茶屋駅周辺商店街他
劇場広報	劇場営業広報宣伝	営業・広報・宣伝活動を通じて、世田谷パブリックシアターの事業を世田谷区内外に広く周知し、地域の劇場/創造発信型劇場としての当劇場の存在意義を高めるブランディング活動とともに、マスコミへの情報提供、ホームページや広報誌などによる情報発信により、主催事業への集客を図り、財団の収益性の向上に資する活動を行った。	通年	—	—	—	—
	学芸共通広報宣伝	学芸で行われているワークショップ・レクチャー等の普及を進めるための広報物の作成や宣伝等の活動を、紙媒体ならびにHP(オンライン)で展開した。	通年	無料	—	—	—
	劇場雑誌の発行	各事業の成果を記載したアニュアルレポートを劇場雑誌として編集・発行する。今年度は令和2年度の事業を報告するための冊子を作成。その他、必要に応じて事業ごとの活動を分析、記録、周知する劇場雑誌を編集・発行した。	通年	無料	1,000部	1,000部	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
海外招聘・ 国際共同 制作	国際共同制作ダンス 磨赤兒×フランソワ・シェ ニョー 『ゴールドシャワー』	フランスを拠点に活躍する気鋭の若手振付家フランソワ・シェニョーと、舞踏の礎を築いてきた大駱駝艦主宰の磨赤兒による、日仏国際共同制作作品『ゴールドシャワー』を上演。両アーティストは2020年3月に日本で稽古を開始、コロナ禍の中でもオンラインで準備を重ね、夏のフランスでの稽古を経て、2020年10月にフランスでヨーロッパ初演を迎えた。様々な困難を乗り越えて創作された作品の、待望の日本初演となった。舞踊ボキャブラリーや、世代、ジェンダー観や文化的背景を大きく超えたアーティスト、スタッフの出会いは、日本のあらゆる観客に響く舞台となった。(3回)	10月15日～17日	4,500～ 1,500	963	840	パブリックシア ター
		滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール	10月23日	4,500～ 3,000	281	—	中ホール
	世田谷アートタウン2021 国際共同制作 『フィアース5』	2015年に発表され、今もカンパニー・ルーブリエ/ラファエル・ボワテルの代表作として上演されている『フィアース5』をベースに、ボワテルによって選出された日本のサーカスアーティストと共にリ・クリエイションし、日本の若者の現在を描いた。世界の第一線で活躍するボワテルとの共同作業を行うことにより人材育成の場ともなった。独立行政法人国際交流基金と共同主催。(3回)	10月9日～11日	4,000～ 1,500	770	900	パブリックシア ター

(3) 世田谷文化生活情報センター 音楽事業部(せたおん)

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
身近に親しむ演奏会	せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート	せたがやジュニアオーケストラの練習の成果を披露する演奏会。新型コロナウイルス感染症対策による練習の制約、また会場の舞台の制約から、各セッションでのアンサンブルを発表する演奏会となった。	11月28日	500	327	420	烏山区民会館
	室内楽シリーズ	内外で活躍する演奏家による室内楽の演奏会を2回開催。 ①日本を代表するソプラノ・砂川涼子のリサイタル。	11月20日	4,000～ 3,500	226	440	成城ホール
		②「山と音楽」をテーマにした、音楽監督の企画「異分野とのコラボレーション」。石丸謙二郎、池辺晋一郎の話と法螺貝、ヨーデル、アルプホルンなどの演奏。	4年3月5日	4,000～ 3,600	277		
	シリーズ和・華・調	【新型コロナウイルスの影響により定員の50%を上限として開催】 日本の伝統音楽を第一級の音楽家による演奏、親しみやすい演出で紹介するシリーズ。今年度は、「美らなる島のうたと踊り」と題して、沖縄伝統芸能の公演を行った。定員が制限されたので、1日2回公演を実施した。	5月29日	4,500～ 4,000	①138 ②125	440	成城ホール
活動をつなぐ演奏会	連携コンサート	意義のある企画を選んで、他の団体と共同で開催するコンサート。 ①世田谷区と包括協定を締結している川崎市の「かわさきジャズ2021」に、A・Dueを派遣した。	10月17日	無料	150	—	新百合ヶ丘駅南口 広場
		②世田谷美術館「ミュージアム コレクションⅢ ART / MUSIC わたしたちの創作は音楽とともにある」展に関連して、ホール全体を一つの音響装置と見立てる「HARDCORE AMBIENCE SETAGAYA PM」を開催した。 ※世田谷美術館と共催	4年3月27日	2,000	65		世田谷美術館講堂
ワーク ショップ・ 講座	せたがや音楽研究所	【新型コロナウイルスの影響により会場を変更し、定員の50%を上限として開催】 「#13 ギューツとなって、ドーン！」 スペシャル・プロデューサー宮川彬良が、楽しく音楽を解析していくコンサート。玉川美沙を進行役に、「昭和歌謡」の魅力を伝えた。	9月23日	4,000～ 3,500	130	270	北沢タウンホール

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所	30
次の時代の ための プログラム		子どもたちが、オーケストラ活動を通じて、豊かな人間性、社会性を身に付けることを目指し、年間通じて活動。新型コロナウイルスの影響を受け、オンライン・レッスンや大人数を避けた練習が多くなった。	通年	月額5,000	70	90	区内各所	
	せたがやジュニアオーケストラ 運営	【新型コロナウイルスの影響により定員40人に制限して開催】 アンサンブル発表会「音楽の世界旅行」 活動が制約を受ける中、演奏活動の機会をつくるために実施した。各セッションでアンサンブルを組み、TOKYO2020大会に合わせて、世田谷美術館「グローバル時代の現代美術展」に関連したテーマを決めて、発表した。	①②7月18日 ③④7月25日	500	①29②30 ③30④30	—	世田谷美術館講堂	
	せたがやジュニアオーケストラ 定期演奏会	1年間の活動の締めくくりとして開催する定期演奏会。本拠地・世田谷区民会館が改修工事中のため、川崎市内で実施した。新型コロナウイルスの影響により、3年ぶりの開催となり、10周年記念の時に委嘱した新作「星をかぞえる」を世界初演した。	4年3月28日	1,500～ 1,000	492	850	ミューザ川崎シン フォニーホール	
区民の表 現の場の 提供	世田谷アーティスト支援企画 Discovery Setagaya Sounds	【新型コロナウイルスの影響により会場を変更して開催】 世田谷区民の一流アーティストによる、世田谷ならではの公演企画。記念すべき第1回目は、井上鑑。「Try and Groove」と題し、編成を変えた2部構成のステージを披露した。なお、音楽に関心のある若者にリハーサルを公開した。	12月18日	4,500～ 4,000	193	290	シアタートラム	
	世田谷区民音楽団体の支援 [区受託]	世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団、3団体の活性化、発展を側面から支援を行った。特に、新型コロナウイルスの影響による活動の制約に対して、情報共有をしながら、対応した。	通年	—	—	3団体	—	
地域活 性のた めの 文化 プロ ジェ クト	せたがやまちかど・まちなかコ ンサート	【新型コロナウイルスの影響により日程を変更し、定員50人に制限して開催】 区民が身近な地域で音楽を楽しめるよう、親しみやすい内容の公演を実施する。お話と歌・マリンバによるコンサート「コトコトさんのドレミ図書館」を4・5歳向けの内容に作り替えて上演。人数を絞って、1日2回公演とした。	4年3月6日	無料	①43 ②38	2,000	北沢タウンホール	
	せたがやミュージック・フェス [区受託]	アマチュア音楽団体が身近な地域のホールで発表する機会であり、同時にゲストのプロ音楽家の演奏も楽しむコンサート。今回は北沢地域で開催。区民団体6つとラテン歌手Ben Hosakaが出演して、会場を賑やかにさせた。	4年3月19日	無料	215	—	北沢タウンホール	
音楽事業 部広報	「情報ガイド」をはじめとする各 種広報活動	ホームページ、「せたおんイベント」や「情報ガイド」、さらにはマスコミ等への情報提供を通じ、事業予定・内容等を広く区民へ発信した。新たに、せたおん公式YouTubeチャンネルをつくり、公演の記録をアップした。	通年	—	—	—	—	

(4) 世田谷文化生活情報センター 国際事業部

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
市民活動 支援	せたがや国際交流センター の運営	【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は電話とメール で問合せ対応】 主に、区内在住外国人の生活相談等の問い合わせに対する窓口案内などを 行った。また、行政情報、生活・文化情報の他、国際交流などの地域活動団体 の紹介を行った。	通年	—	3,939	2,400	せたがや国際交 流センター
	区内活動団体の支援事業	区内で多文化共生、国際交流、国際貢献活動をしている団体に対して、事業 のPRや事業連携を行った。 【せたがや国際交流センター展示コーナー提供】 駒澤大学服部ゼミ、三田国際高校、船橋希望中学校、米国アーリントン市、他 【職員研修】 CINGA 【広報】 世田谷区産業振興公社、世田谷サービス公社、成城大学、東京で国(境)をこ える、CFFジャパン、他 【講座、イベント】 世田谷区産業振興公社、テンブル大学、東京YWCA、せたがや和文化国際 交流会、他	通年	—	32団体	20団体	せたがや国際交 流センター
国際交流・ 異文化理 解の推進	区民国際交流事業	【新型コロナウイルスの影響によりオンライン配信に変更して実施】 『せたがや国際メッセ』 SDGs～わたしたちができることを考える～をテーマに、講演会やオンライン マジック、ミニコンサート、区内団体によるパネルディスカッションなどを区と共 催で実施した。	4年2月12日	無料	動画視聴数 485	1,000	三茶しゃれなあ ど、YouTube動 画配信
		【新型コロナウイルスの影響により規模を縮小して実施】 『国際交流inせたがや』 海外・国際研修旅行の参加者で結成された世田谷海外研修者の会による海 外の飾り展示、和紙で花・ランプシェードなどの手作り体験を実施した。	4年2月19日	無料	90	300	セミナールーム
	外国人のためのまち歩きツ アー	世田谷八幡宮、豪徳寺、世田谷代官屋敷などの文化施設をめぐりながら地域 の魅力を発見することで、日本人と外国人が交流するツアーを実施した。	6月12日	1,000 (学生500)	23 (内、ガイド 7)	20	区内文化施設や 商店街など
ワーク ショップ・ 講座	多文化理解講座	外国人との交流を希望する在住外国人を含む区民を対象に、様々な国の文 化などを学ぶことができる講座を実施した。					
	①東京YWCA 『留学生の 母親』運動 って何だろう	東京YWCAが約60年間、継続しているボランティア活動を紹介した。留学生 とYWCA会員を母子に見立てた交流の実体験を聞くことができる講座。	6月19日	500	26	40	セミナールーム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	②市民目線で考える外国人とのコミュニケーション	ボランティア活動などを行ってきた市民による、体験から語る国民性の違いやエピソードなどを紹介する講座。	7月17日	500	24	20	セミナールーム
	③食を通じた異文化交流	インド料理店を営むオーナーシェフによる、食文化と日本での生活について知ってもらう講座。	8月21日	500	22	20	セミナールーム
	④やさしい日本語で伝えてみよう	NHKウェブサイト”NEWS WEB EASY”で、ニュースを「やさしい日本語」で発信してきた講師による「やさしい日本語」を学ぶ講座。	9月11日	500	42	40	セミナールーム
	⑤世界のTea Timeを比べてみよう	海外と日本のお茶に対する考え方などを比較しながら、文化の違いを学ぶ講座。(午前・午後 2部制)	10月9日	500	41	30	セミナールーム
	⑥フランス人落語パフォーマー/シリル・コピーニ氏を迎えて	日本在住のフランス人翻訳家である落語パフォーマーを講師に迎え、日仏の文化の違いなどを知る講座。(午前・午後 2部制)	11月6日	500	115	80	セミナールーム
	⑦CFFジャパン「ミャンマーの今とこれから」	ミャンマー農村部の児童養護施設で働いたNGOスタッフが、団体の活動を紹介し現地の生活や社会情勢について語る講座。	12月18日	500	47	25	セミナールーム
	⑧外国人スタッフが語る日本酒のはなし	国際交流センターの外国人スタッフが、来日して極めた日本酒の魅力について語る講座。	4年1月22日	500	46	40	セミナールーム
	にほんご交流会	日本語を学んだ外国人が、日本人と日本語で話しをすることで、学んできた日本語を実践するとともに、言葉や文化の違いを超えたつながりを作る交流の場を提供した。(2回)	①7月17日 ②4年3月19日	①②500	①41 ②53	①40 ②72	セミナールーム
『テンブル大学学生による発表会&交流会』 日本語を学んだテンブル大学学生が、日本人と外国人の交流について考えたことを発表し、その後、参加者と交流を図った。		12月6日	500	53	30	テンブル大学 ジャパンキャンパス	
国際事業部広報	国際事業部広報	せたがや国際交流センターの施設案内、国際事業部の事業などを情報発信する。また国際交流活動や地域活動などを実施する団体情報、外国人への生活に役立つ情報なども併せて発信した。 (ホームページ、Facebook、Twitter、Instagram、情報ガイド、メールマガジン、ニュースレター)	通年	—	—	—	—

(5) 世田谷美術館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	アイノとアルヴァ 二人のア ルト フィンランドー建築・デザイン の神話	【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 モダニズム建築の国際的な巨匠のひとりと考えられる建築家、アルヴァ・ア ルト(1898-1976)。アールト建築のエッセンスの確立には、最初の妻であるア イノ・アールト(1894-1949)の存在と影響が大きく寄与していた。アイノの仕事 と、互いの才能を認め合い補完しあったアルヴァとの関係性を、アルヴァ・ア ルト財団およびアルヴァ&アイノ・アールトエステート所蔵の作品資料により展 覧した。なお本展は、公益財団法人ギャラリーエークワッドの企画協力により国 内で当館他1館を巡回した。(39日間)	(3月20日)～ 6月20日	一般1,200他	25,687	26,250 (総計: 30,000)	世田谷美術館
	塔本シスコ展 シスコ・パラ ダイ スカカズにはいられない！ 人 生絵日記	塔本シスコ(1913-2005)は熊本県に生まれ、父親の夢であったサンフランシ スコ行きにちなんでシスコと命名された。本展では、専門的な美術教育を受け ずに制作を続けたシスコの1960年代から絶筆まで、油彩画約100点を中心に 構成した。そのほか、自作の人物や、ガラス瓶に描いた作品も展示し、身の回り のすべてを素材とした塔本シスコの描くことへの飽くなき意欲をご覧いただい た。なお本展は本館を含む4館巡回展として開催した。(56日間)	9月4日～ 11月7日	一般1,000他	14,794	15,000	世田谷美術館
	【米国ホストタウン関連事業】 生誕160年記念グランマ・ モーゼス展 一素敵な100年人生	アメリカの国民画家とも言われる素朴画家グランマ・モーゼス(1860-1961) は、70代にして絵筆をとり、自分の住む村を取り囲む自然や農村に生きる人々 の生活を描いた。2020年には生誕160年を迎え、彼女を支援してきたギャラ リー・セント・エティエヌの全面的な協力のもと、約130点の油彩及び資料を 展示し、101歳まで長寿を得て創作にいそしんだ女性の生涯を改めて紹介し た。開館以来素朴絵画を収集展示してきた当館が幹事館となり、全国5会場で 開催予定。東映、朝日新聞社、BS-TBSと共催。(81日間)	11月20日～ 4年2月27日	一般1,600他	53,312	63,000	世田谷美術館
	出版120周年 ピーターラビット™展	世界中で愛される最も有名なウサギ、ピーター・ラビット™。イギリスの挿絵画 家ビアトリクス・ポター™によって1902年に最初のシリーズの絵本が出版され た。本展はその出版120年を記念して企画された。絵手紙、原画、スケッチなど 日本初公開となる貴重な作品を英国及びアメリカより借用し、展示した。また、 120年にわたって愛されてきた彼の関連資料、グッズなども紹介し、広い世代に わたって人気を誇るその魅力に迫った。当館開催後、全国2会場へ巡回予定。 朝日新聞社、フジテレビジョン、東映との共催。(5日間)	4年3月26日～ (6月19日)	一般1,600他	5,440	4,000 (総計: 60,000)	世田谷美術館
調査・研究	調査・研究						
	①企画展	次年度以降の企画展の立案・具体化のため、国内外各所との交渉や基礎的 な調査研究を行った。	通年	—	—	—	世田谷美術館
	②収蔵品等 [指定管理]	収蔵品及び美術館活動に係る調査・研究を行う。学芸員による調査研究成果 を、美術研究に資するため、『紀要』として編集発行。	通年	—	350冊	350冊	世田谷美術館及 び分館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 34
調査・研究	アーカイブ [指定管理]	令和2年度の事業のまとめとして、美術館活動を総括し、記録する『年報』を編集発行した。	通年	—	300冊	300冊	世田谷美術館
収蔵品展	美術館 ミュージアム コレクション [指定管理]	世田谷美術館の収蔵作品を、テーマを設定して公開した。	4月17日～ 6月13日	一般200他	30,000	世田谷美術館	
		【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 第Ⅰ期 驚異の三人！！高松次郎・若林奮・李禹煥——版という場所で 小コーナー 追悼 安齊重男 (19日間)					
		【オリンピック・パラリンピック関連事業】 ミュージアム コレクション特別篇 グローバル化時代の現代美術 ——“セタビ”のコレクションで楽しむ世界旅行 (44日間)	7月3日～ 8月22日				6,356
		第Ⅱ期 くそれぞれのふたり「大沢昌助と建畠覚造」 小コーナー 河合卯之助のしごと—新収蔵品より (62日間)	9月11日～ 11月21日				10,589
		第Ⅲ期 ART/MUSIC わたしたちの創作は音楽とともにある (96日間)	12月4日～ (4年4月10日)				24,679
		関連企画「HARDCORE AMBIENCE SETAGAYA PM」 ※音楽事業部と共催	4年3月27日				2,000
向井潤吉アトリエ館収蔵品展 [指定管理]	向井潤吉作品にかかわる作品展を年2回実施した。	【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 【ギャラリートークは中止】 第Ⅰ期 生誕120年 向井潤吉の歩みと作品Ⅰ (122日間) ——デザインの仕事を加えて	4月1日～ 9月26日	一般200他	8,100	向井潤吉アトリエ館	
			第Ⅱ期 生誕120年 向井潤吉の歩みと作品Ⅱ (123日間) ——向井が愛した家具とともに				10月16日～ 4年3月13日
清川泰次記念ギャラリー収蔵品展 [指定管理]	清川泰次作品にかかわる作品展を年2回実施した。	【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 【ギャラリートークは中止】 第Ⅰ期 清川泰次 線と立体表現 (122日間)	4月1日～ 9月26日	一般200他	2,420	清川泰次記念 ギャラリー	
			第Ⅱ期 清川泰次 水のある風景と昭和の人々 (123日間)				10月16日～ 4年3月13日

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 35
収蔵品展	宮本三郎記念美術館収蔵品展 [指定管理]	宮本三郎作品にかかわる作品展を年2回実施した。 【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 【ギャラリートークは中止】 第Ⅰ期 宮本三郎、画家としてⅠ：はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s (122日間)	4月1日～ 9月26日	一般200他	898	3,600	宮本三郎記念美術館
		第Ⅱ期 宮本三郎、画家としてⅡ：混沌を貫け、花開く絵筆 1950s-1970s (123日間)	10月16日～ 4年3月13日		1,077		
		第6回宮本三郎記念デッサン大賞展 明日の表現を拓く ※世田谷美術館区民ギャラリーで開催 (12日間)	11月23日～ 12月5日	無料	2,107		
資料収集・ 管理	資料収集 [指定管理]	貴重な美術作品及び美術に関する資料を、世田谷区民の文化的財産として蓄積していくため、区と共に収集委員会条例に基づき、美術品等を収集する。現在、作品の購入はないが、作家本人や区民から寄贈の申し出があり、収集する機会が生ずる。これらの機会を的確にとらえ調査を行い、収集委員会への提案に結び付けた。新規委託物品248点(取得評価額357,650,000円)。	通年	—	—	—	世田谷美術館及び分館
	作品保管整理 [指定管理]	収蔵品を保管・整理し、いつでも展示・公開できるように作品のコンディションを良い状態に保った。問題が生じた作品は修復や額装改善などの処置を施した。作品のデータについては収蔵品管理システムを活用し、一括管理した。また、収蔵品の公開の機会を増やすため、貸付要領に基づき作品の貸出を行った。修復、額装など308点。貸出については、貸出8件101点(内資料0点)、返却11件119点(内資料1点)、寄託4件82点。	通年	—	—	—	世田谷美術館及び分館
アートライ ブラリーの 運営	アートライブラリーの運営 [指定管理]	世田谷美術館が所蔵している美術専門書の閲覧やビデオ視聴、またレファレンスサービス等による情報提供を行った。	通年	—	7,566	12,000	世田谷美術館
ワーク ショップ・ 講座	講座・ワークショップ	新型コロナウイルスが収束していない可能性を考慮しながら、美術と創造の普及を目的とした各種講座、企画展に関連した講座、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とした単独開催形式の講座を開催した。どなたでも気軽に参加できる100円ワークショップ、実技の体験を目的とした講座や小中学生を対象に連続した実技と講義で美術を学ぶ講座を開催した。また、ギャラリートーク・講演会・ワークショップ・コンサート、ホームページからの動画配信など様々な普及活動を行った。					

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 36
ワーク ショップ・ 講座	講座・ワークショップ	【各種講座】 ホームページによる動画配信「セタビチャンネルJr.」等に変更し実施。	通年	—	328	1,545	世田谷美術館及 び分館 創作室 オンライン
		【100円ワークショップ】 「おうちで100円ワークショップ」として、過去の人気ワークショップの材料を キットにして販売。	通年	100	1,497		
		おうちで100円ワークショップ(グランマ・モーゼス展) 「箱の中のカントリーライフ」	グランマ・モーゼス展 会期中の土曜日	100	861		
		おうちで100円ワークショップ(ピーターラビット展) 「もふもふ in イングリッシュガーデン」	4年3月26日	100	86		
		【ナイトツアー】 参加者は募らず、実際にツアーを体験しているような動画を生配信した。 ナイトツアー2021「怪盗イバテスと少年少女探偵団」	7月22日～ 8月21日	—	参加者36 動画視聴者 数1,173		
	分館講座室活動	宮本三郎記念美術館 サマーワークショップ2021 「美術館をお花でいっぱい！」	8月12日～15日	無料	85	—	宮本三郎記念美 術館
	美術大学	長期の本科は開催せず、講義のみで構成したライブ配信併用型の短期セミ ナーを3か月にわたり開催。その他、ホームページからの動画配信などを通じて の通信講座を引き続き開催した。また修了者を対象としたステップアップ講座も 規模を縮小して開催した。	通年	短期セミナー無 料/ステップ アップ講座 2,000円他/ 通信講座無料	短期セミ ナー82(内、 来館31/配 信51) ステップア ップ講座118 通信講座 5,494	120	世田谷美術館 オンライン
	パフォーマンス	美術館を音楽による交流の場とするとともに、若手音楽家の育成を図ることを 目的に、実力ある若手音楽家によるリサイタル形式のコンサートを回数及び観 客数を制限して実施した。また、ポッドキャストで演奏の一部と演奏者のインタ ビューを公開した。					
①プロムナード・コンサート	紀野洋孝 テノール・リサイタル	12月19日	無料	59	80	世田谷美術館	
	梶田真未 ソプラノ・リサイタル 【出演者都合により中止】(計画会期4年3月 12日)	—	無料	—			

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 37
ワーク ショップ・ 講座	②パフォーマンス等イベ ント	当館の建築空間を活かしたイベントを実施した。新型コロナウイルスが収束して いない可能性を考慮し、ハイレベルな記録写真や映像を撮影し、オンラインで 動画を配信することで一層幅広い観客層の関心に応えた。 トランス／エントランス特別篇 「夢の解剖―猩々乱」 原案・演出：ルカ・ヴェジェッティ 出演：長山桂三、観世鎮之丞、大倉源次郎ほか	10月5日、6日 配信12月1日～ 4年3月31日	一般5,000他 配信1,000	285 (内、公演 130/配信 155)	760 (内、配信 700)	世田谷美術館
子どもと学 校プログラ ム	美術鑑賞教室	世田谷区教育委員会との連携により、世田谷区立の小学校4年生の児童、中 学校の生徒を対象に、展覧会及び美術館内の施設見学を実施した。また特別 プログラムでは、当館学芸員および当館インターンによる区立小学校などへの 出張授業を行った。(美術鑑賞教室は小中学校全90校、出張授業は小学校全 14校、内オンライン7校)					
		【小学生】	7月～4年3月	—	6,878	17,300	区内小・中学校 など 世田谷美術館 オンライン
【中学校】	5月～4年3月	—	571				
人材育成 プログラム	学校との連携	本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため従来の活動を大幅に改定 し、リモートで実施可能な普及活動も展開した。 ①博物館実習 学芸員後継者育成と美術館諸活動の普及のために、博物館学実習の講義 をライブ配信併用で行った。(5日間)	7月27日～31日	10,000	45	20	世田谷美術館
		②インターンシップ 長年の実績がある学芸大学インターン生を育成し、美術鑑賞教室で来館する 区内小学校4年生への事前(事後)出張授業を行う特別プログラムを実施した (区内小学校3校)。	4月～4年1月	無料	361 (内、イン ターン生9/ 児童352)	30 (インター ン生のみ)	世田谷美術館他
		③区内大学との連携 昭和女子大学とテンプレ大学の合同授業「コミュニティアート」のレクチャー協 力や、昭和女子大学の有志企画「サンチャート」への企画協力を行った。	9月～4年3月	無料	44	—	世田谷美術館 区内大学オンラ イン
アクセシビ リティ向上 事業	アクセシビリティ向上事業	【新型コロナウイルスの影響により中止】 展覧会に関連した講演会において、より良い理解を目的として、手話通訳を 手配し、配置する。	—	—	—	10	世田谷美術館
	ミュージアム・セッション	【新型コロナウイルスの影響により中止】 視覚障害者と晴眼者がともに美術を鑑賞し、豊かなコミュニケーションを育む という新しい実践及び研究に関する講演会等をオンラインで配信する。海外の 事例のみならず国内の事例の紹介も行っていく。	—	—	—	300	世田谷美術館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 38
区民の表現の場の提供	区民展	世田谷区もしくは川場村在住・在勤・在学者を対象に、写真および絵画作品の募集を行い、区民ギャラリーにて展示した。	4年1月4日～7日 オンライン展覧会 1月8日～2月27日	無料	851 オンライン展覧会の視聴回数総計 2,417回	250	世田谷美術館
	区民ギャラリー等の貸出 [指定管理]	世田谷美術館及び清川泰次記念ギャラリーにおいて、創作活動発表の場として区民ギャラリーの貸出を行った。	通年	1日あたり1室 13,820他 (利用は6日単位)	46,583	75,000	世田谷美術館
	①美術館(本館)区民ギャラリー	創作活動発表の場として、世田谷美術館の区民ギャラリーA・B貸出を行った。(利用団体数102)					
	②美術館(本館)講堂	文化・芸術に関する活動・発表の場として、美術館活動に支障のない範囲で世田谷美術館の講堂貸出を行った。(利用団体数23)					
③清川泰次記念ギャラリー 区民ギャラリー	創作活動発表の場として、清川泰次記念ギャラリーの区民ギャラリー貸出を行った。(利用団体数32)	通年	1日あたり1室 2,880他 (利用は6日単位)	3,491	4,000	清川泰次記念 ギャラリー	
地域活性のための文化芸術事業	ボランティア活動	世田谷区立小学校鑑賞教室及び出張授業、中学校鑑賞教室、ミュージアム・ツアー、ワークショップ、イベント等の支援を行った。	通年	無料	250	250	世田谷美術館他
	【米国ホストタウン関連事業】 日米芸術家交換プログラム コラボレーション2020	世田谷区がアメリカのホストタウンであることから、世田谷区、日米友好基金、全米芸術基金との共催事業として、アメリカのアーティストを招聘。区民ギャラリーで、アーティストと区民が交流できる展覧会を開催した。	7月27日～ 8月8日	—	(373)	1,500	世田谷美術館
美術館広報	美術館広報	ホームページや印刷物の他、マスコミ媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信した。 新型コロナウイルスの影響で来館できない人々も楽しめるよう「世田美チャンネル」など動画コンテンツを配信したほか、SNSでの情報発信も行った。ホームページでデジタルコンテンツとしてブログ46本、動画コンテンツ34本、ポッドキャスト2本を公開した。	通年	—	—	—	—
	美術館だより・年報の発行	①美術館だより(年3回)の発行 ②年間予定表(2022年度)の発行	①6月、10月、 4年2月 ②4年3月	—	①各1,500部 ②50,000部	54,500部	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	イラストレーター 安西水丸展	<p>【新型コロナウイルスの影響による臨時休館(4/25～5/31)のため会期を変更】 (計画会期4/24～8/31)</p> <p>イラストレーターとして出版や広告など多方面で活躍する一方、旅・映画・食にまつわるエッセイや、創作小説、絵本、漫画など、幅広い分野で才能を発揮した安西水丸(1942～2014)。本展では各分野における仕事を展示紹介し、幼少期から晩年に至るまでの足跡をたどるとともに、親しく交流し、共著・共作も多い、嵐山光三郎、村上春樹、和田誠との創作活動を大きく取り上げ、約600点の資料からその全貌に迫った。安西の国内外の旅に焦点を当てたコーナーも特設したほか、愛用品の追加借用や遊び心あふれる空間造作など、巡回展にさらなるオリジナルの要素を加えて質を高めた。</p> <p>文化庁の助成金「ARTS for the future!」を活用して実施した、作家関係者へのインタビューのPodCast配信や展示会場の動画配信は、今後の館全体の活動の充実にもつながる積極的な取り組みとなった。</p>	4月24日～ 9月20日	900～300	27,627	15,000	世田谷文学館
	描くひと 谷口ジロー展	<p>『坊っちゃん』の時代、「孤独のグルメ」などの代表作で知られ、日本はもとよりフランス、イタリアなどのヨーロッパ、中国語圏をはじめとするアジアの国々でも多くの読者を持つマンガ家・谷口ジローの作品世界を紹介する大規模個展。</p> <p>緻密な作画、構成によって描き出される作品は、原作者との協働でもオリジナルでも、谷口ジローならではの世界、時空間に読者を惹きこむ力に満ちている。深い読後感を残す谷口作品は海外でも大人の読書に堪える芸術として高い評価を獲得しており、日本マンガの成熟を象徴する存在としても改めて顕彰した。</p> <p>完成体は刊行物である漫画だが、そこに至るまでの高い作画技術、独自のテーマ探訪、ストーリー作りの軌跡などを紹介したことで、多くの来場者より好評を得た。</p>	10月16日～ 4年2月27日	900～300	21,751	14,000	世田谷文学館
調査・研究	調査・研究 [指定管理]	文学館活動の基盤となる収蔵コレクション及び世田谷ゆかりの作家・ゆかりの作品の調査・研究を行う。25周年記念コレクション展には全学芸部職員がテキスト執筆で参加するなど、その成果を活用した。	通年	—	—	—	世田谷文学館
収蔵品展	コレクション展 [指定管理]	<p>【新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止】 前期(4月24日～9月26日)</p> <p>「受贈記念 夷齋先生・石川淳」は、令和元年度に寄贈を受けた昭和文学を代表する作家・石川淳の貴重な原稿や執筆メモ、交流した文学者、研究者からの書簡などを紹介した。</p> <p>後期(10月16日～令和4年3月31日)</p> <p>「セタブン大コレクション展PART1 深くこの生を愛すべし」は、令和2年度に一部実施できなかった開館25周年記念事業の一環として当館の多彩なコレクションを基に複数の作家たちの創作と人生のエピソードを紹介し、世田谷ゆかりの作家に一層関心を深める内容で開催した。本展は2022年度前期に「PART2」を企画しており、「PART1」「PART2」を網羅する図録『世田谷文学館コレクション図鑑』を刊行した。</p>	4月24日～ 4年3月31日	200～100	12,253	22,000	世田谷文学館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 40
資料収集・管理	資料収集・管理 [指定管理]	世田谷ゆかりの作家や区民等からの寄贈・寄託により、文学資料等の収集、および世田谷区が所有している作品を系統的に整理するとともに、良好な状態で保存・展示するため保管管理し、計画的に調査を進めた。保管環境の維持・向上のため、展示室・収蔵庫および周辺部の環境確認のための環境調査のモニタリングを年間通じて行い、災害等緊急時のコレクション保護のための環境整備も継続して行った。 また、貸付要領に基づき、コレクションの貸付を他館展覧会等へ行った。 令和4年3月31日現在101,085点の収蔵品を保管・登録 収蔵品の貸付:6件66点(内1件1点寄託資料) 特別観覧:10件29点 特別閲覧:9件282点	通年	—	—	—	世田谷文学館
OAシステム	OAシステムの運用 [指定管理]	世田谷文学館の収蔵資料を適切に管理し、活用・公開を促進するため、収蔵品管理システムの管理運営を行った。また、令和2年度開始したホームページ上での主要収蔵資料の検索サービスの追加公開を行った(7月-植草甚一関連資料公開、3月-映画監督・成瀬巳喜男旧蔵資料データ整備完了)。今後もコレクションごとに公開していく。	通年	—	—	—	世田谷文学館
地域連携事業	どこでも文学館	「いつでも、どこでも、だれでも参加できる博物館」というコンセプトのもと、館内では、オンラインも活用し子ども向けワークショップやワークシート制作などのプログラムを開発、実施した。また館外では、学校や地域と連携しながら写真展や文学作品のパネルなどの出張展示・出張ワークショップを行った。新規出張展示キット「若草物語 -Little Women-」「シートン動物記」の制作も行い、出張展示キット貸出しの本格的な全国展開を開始した。延べ16回のワークショップ、46回の出張展示を実施した。				60,000 ↓	
		絵本のような傘をつくろう 講師:前川拓路(中川ケミカル)	6月26日	無料	13		コミュニティカフェなつのこ
		俳句色紙をつくろう 講師:佐藤文香(俳句作家)、原麻理子(イラストレーター)	7月3日	無料	14		世田谷文学館
		pipioといっしょにおはなしと工作のじかん 講師:pipio	7月24日	無料	45		オンライン開催
		巨人伝説を探れ! ~ダイダラボッチ探検隊を募集~ 講師:高橋大輔(探検家)	8月21日	無料	48		オンライン開催
		<ほんとう>哲学カフェ ~みんなで語ろう~① 講師:幡野雄一(NPO法人こども哲学おとな哲学アーダコーダ)	8月29日	無料	12		オンライン開催
		だれでも小説家 ~ショートショートを書こう~(全3回) 講師:荒居蘭(小説家)	9月4日,5日,12日	無料	延39 (14,14,11)		オンライン開催
		3日間のワークショップ「ひと箱本屋のつくりかた①②」 講師:和氣正幸(BOOKSHOP TRAVELLER)	10月2日,23日	無料	延19 (9,10)		オンライン開催
生業さがし -漫画にかかわる仕事- 講師:大場渉(KADOKAWA)、入江亜季(漫画家)	11月7日	無料	5	世田谷文学館			

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 41
地域連携 事業	どこでも文学館	3日間のワークショップ「ひと箱本屋のつくりかた③」 講師：小林良壽,小林あかね(古書まどそら堂)	11月13日	無料	11	↑ 60,000 ↓	世田谷文学館
		もっと朗読を楽しもう ～プロの読み方を聞いてやってみよう～ 講師：緒方賢一(俳優・声優)・水田わさび(声優)	12月11日	無料	160		芦花小学校
		ことばとからだ ～ダンスでつながろう～ 講師：日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部	12月12日	無料	19		オンライン開催
		<ほんとはわ> 哲学カフェ ～みんなで語ろう～② 講師：幡野雄一(NPO法人こども哲学おとな哲学アーダコーダ)	4年1月29日	無料	8		オンライン開催
		ワン・ミニット・ムービー ～オリジナルストーリーをつくろう～ 講師：本田友美(教育と探求社)・北阪昌人(脚本家)	4年1月30日	無料	10		世田谷文学館
		出張展示「寺山修司のススメ」	4月1日～4月14日	無料	3,400		梅丘図書館
		出張展示「SF入門 星新一」	4月1日～6月16日	無料	18,950		梅丘図書館
		出張展示「セタブン人生相談 ーあなたのための人生処方箋」	4月1日～6月18日	無料	1,251		川場村 ふじやま ビレジ 食堂前
		出張展示「OSAMU'S MOTHER GOOSE」	4月1日～6月18日	無料	1,463		川場村 ふじやま ビレジ せせらぎ の湯
		出張展示「山へ！ to the mountains」	4月1日～6月18日	無料	559		川場村 なかのビ レジ B棟
		出張展示「台湾・世田谷交流バナー 台湾はどんな国？」	4月10日～4月22日	無料	84		世田谷文学館
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	4月24日～8月31日	無料	1,967		世田谷文学館
		出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	6月2日～7月15日	無料	200		飯田橋ガーデン 保育園
		出張展示「大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界」	6月14日～6月25日	無料	696		祖師谷小学校
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	6月18日～7月14日	無料	6,600		梅丘図書館
出張展示「北杜夫 どくとるマンボウ昆虫展」	6月18日～10月12日	無料	31,980	梅丘図書館			
出張展示「水上勉のハローワーク」	6月19日～10月19日	無料	4,608	川場村 ふじやま ビレジ 食堂前			

※ ↑ ↓は前後のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 42
地域連携 事業	どこでも文学館	出張展示「山へ！ to the mountains」	6月19日～10月19日	無料	5,494	↑ 60,000 ↓	川場村 ふじやま ビレッジ セセラぎ の湯
		出張展示「寺山修司のススメ」	6月19日～10月19日	無料	3,020		川場村 なかのビ レッジ B棟
		出張展示「SF入門 星新一」	6月25日～7月9日	無料	1,172		奥沢区民セン ター
		出張展示「井上ひさし ふかいことをゆかいに」	6月25日～7月28日	無料	21,292		中央図書館
		出張展示「OSAMU'S MOTHER GOOSE」	7月23日～9月1日	無料	891		コミュニティカ フェななつのこ
		出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	7月30日～8月25日	無料	19,398		中央図書館
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	8月13日～9月10日	無料	1,798		奥沢区民セン ター
		出張展示「大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界」	9月2日～9月20日	無料	738		船橋希望中学校
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	9月3日～9月29日	無料	975		コミュニティカ フェななつのこ
		出張展示「台湾・世田谷交流バナー 台湾はどんな国？」	9月4日～10月14日	無料	857		世田谷文学館
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	9月24日～10月8日	無料	355		山崎小学校
		出張展示「セタブン人生相談 —あなたのための人生処方箋」	9月27日～10月8日	無料	366		駒沢中学校
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	10月4日～10月29日	無料	309		池之上小学校
		出張展示「SF入門 星新一」	10月6日～ 10月27日	無料	365		玉川中学校
		出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	10月9日～ 11月28日	無料	418		gallery Ten→ Sen(千葉県松 戸市)
		出張展示「SF入門 星新一」	10月11日～ 10月22日	無料	696		祖師谷小学校
出張展示「宮西達也と子どもたち」	10月14日～ 10月28日	無料	405	太子堂小学校			

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 43
地域連携 事業	どこでも文学館	出張展示「若草物語 -Little Women-」	10月16日～ 12月28日	無料	2,765	↑ 60,000	世田谷文学館
		出張展示「台湾・世田谷交流バナー 台湾はどんな国？スポーツ編」	10月20日～ 4年3月31日	無料	6,404		川場村 ふじやま ビレジ 食堂前
		出張展示「台湾・世田谷交流バナー 台湾はどんな国？スポーツ編」	10月20日～ 4年3月31日	無料	7,678		川場村 ふじやま ビレジ セセラぎ の湯
		出張展示「北杜夫 どくとるマンボウ昆虫展」	10月20日～ 4年3月31日	無料	3,733		川場村 なかのビ レジ B棟
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	10月28日～ 11月12日	無料	333		松沢中学校
		出張展示「SF入門 星新一」	11月1日～11月26日	無料	309		池之上小学校
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	11月4日～11月30日	無料	720		京西小学校
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	11月15日～12月9日	無料	738		船橋希望中学校
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	11月20日	無料	1,113		山梨県立文学館
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	11月26日～ 12月24日	無料	1,591		奥沢区民セン ター
		出張展示「SF入門 星新一」	11月26日～ 12月24日	無料	344		八幡小学校
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	12月10日～ 12月24日	無料	1,082		芦花小学校
		出張展示「OSAMU'S MOTHER GOOSE」	12月10日～ 4年3月31日	無料	26,300		梅丘図書館
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	4年1月7日～ 2月10日	無料	20		医療的ケア相談 支援センターHi- na・ta
		出張展示「セタブン人生相談 ーあなたのための人生処方箋」	4年1月26日～ 2月3日	無料	591		粕谷区民セン ター
		出張展示「シートン動物記」	4年2月23日～ 3月31日	無料	690		世田谷文学館
出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	4年3月16日～ 3月22日	無料	80	阪急阪神百貨店 西宮阪急			

※ ↑ ↓ は前後のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 44
地域連携 事業	幼保連携 [区受託]	【教育委員会からの依頼で1～2月に実施】 世田谷区教育委員会の「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」の基本方針の一つである「文化・芸術とふれあうための各園等における環境づくり支援」の一環として、乳幼児を対象とした文化・芸術体験のアウトリーチ事業と連携するため、世田谷文学館が制作した出張展示用パネルセットの展示を、当委員会から委託を受け、本年度は1園で実施した。 出張展示「水丸さんのがたんごとん」	4年1月11日～ 2月10日	無料	67	200	砧幼稚園
講演会等 事業	企画展・コレクション展・ライブ ラリリー関連公演会、上映 会、コンサート等事業	令和3年度も前年に引き続きコロナ禍の影響で、リアルで開催するイベントは実施を見合わせた。オンラインのイベント「安西水丸展」開催記念「水丸カラー部、集合」(出演:倉崎紀和子、角田光代)を実施した。	6月12日	1,800	55	2,000	世田谷文学館 オンライン
	セタブンマーケット 2021	【新型コロナウイルスの影響により中止】 書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を発信する、本と雑貨の蚤の市。作家・デザイナー・編集者からの特別出品や、子どもも楽しめるミニワークショップなど、世田谷文学館独自の内容で開催。3年度は2回開催。6月には「イラストレーター 安西水丸展」と連動し、作品世界ともなじみのよい雑貨店やセレクト書店の出店やイベントを実施。10月には開館25周年を記念して、世田谷文学館ゆかりの作家たちに関連するグッズ販売や、イベントを開催する。(新型コロナウイルスの拡大状況を見ながら規模・内容を検討)	—	—	—	2,000	世田谷文学館
	開館25周年記念イベント	開館25周年記念イベントとして、延期となった東京2020大会にも合わせた、日本と台湾のスポーツ交流について紹介する台湾交流オンライントークイベント「日本語で読める絶対面白い台湾の本」(9月11日開催 出演:太台本屋)、台湾紹介パネル展示、ポップアップストアを実施した。 また、世田谷文学館の多彩なコレクションを紹介する開館25周年記念「セタブン大コレクション展」と連動した記念冊子を作成した。	9月	—	延726	2,000	世田谷文学館 オンライン
活動支援・ 共催事業	市民活動・友の会の支援など	友の会をはじめ、文学活動を中心とする区内外の団体の講座や活動を支援し、市民の生涯学習の要望に応えた。 国士館大学国文学大会講演「文学を〈体験〉するということ」(10月22日) 友の会共済講演「さようなら安野光雅さん、半藤一利さん」(4年2月6日)	通年	—	延208	297	世田谷文学館 オンライン
人材育成 プログラム	学芸員実習	学芸員後継者育成のために、博物館学実習の講義・実習を行った。(6日間)	7月27日～8月1日	無料	3	3	世田谷文学館
	職場体験などの受入	博物館の仕事全般を学び、事業の企画や実施にも直接携わることができる中学生向けのプログラム。今年度はコロナ禍のため、オンラインでのヴァーチャル施設見学および職業インタビューとして対応した。 受入れ校:田園調布学園、芦花中学校	6月4日 7月14日 9月19日	無料	9	30	オンライン

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 45
ライブラリーの運営	ライブラリー「ほんとう」の運営 [指定管理]	授乳室などのベビーケア設備を備えた子どものための本のエリアや、各分野で活躍するプロフェッショナル、作家が薦める本のコーナーなど、書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を提案し、地域のための図書空間を企画・運営した。「ほんとう」を拠点とした新企画で「ほんとうラジオ」放送(令和4年1月～)を開始した。 ◇「ほんとうラジオ」 (エフエム世田谷83.4MHz 毎週木曜日11:00～11:30 パーソナリティ・河西美紀) ゲスト: 亀山郁夫(1月)・関川夏央(2月)・樋口真嗣(3月) 特別番組: 『『描くひと 谷口ジロー展』記念対談』(ヤマザキマリ、夏目房之介出演、2月11日放送)	通年	—	15,614	15,000	世田谷文学館
区民の表現の場の提供	第36回 世田谷文学賞	区民の創作活動の発表の場として、詩・短歌・俳句・川柳・エッセイ作品を募集し、応募者年齢も最高齢者98歳、最年少14歳という幅広い年齢層から合計770作品の応募があった。上位入賞作品は冊子「第36回世田谷文学賞 受賞作品集」等に掲載した。	募集9月 冊子送付3月	—	324	—	—
文学館広報	文学館広報	ホームページや印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信した。 本年度は特に、ホームページのリニューアルに取り組み本格稼働させると共に、SNS等による情報発信の充実を図った。	通年	—	—	—	—
	文学館ニュースの発行	文学館の事業活動を広く周知するため、文学館ニュースを年2回発行した。	2回	—	各 10,000部	各 10,000部	—

(7) 財団共通

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
来館者サ ポート	来館者サポート	様々な状況にある区民等の参加機会を増やすため、公演等において来館者サポートを行った。					
		【生活工房】 新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止					
		①車椅子の貸出	通年	—	—	—	ワークショップ ルーム等
		②授乳スペースの提供	通年	—	—	—	授乳室等
		【世田谷パブリックシアター】					
		①託児サービス 託児付き公演(41公演)	通年	2,200	75	—	パブリックシア ター/シアター ラム
		②車椅子スペースの利用	通年	定価の10%引、 付添1名無料	45 (付添27)	—	
		③車椅子の貸出	通年	—	—	—	
		④客席内エレベーターの利用	通年	—	—	—	シアターラム
		⑤視覚障害者のための音声案内システム付き化粧室の設置	通年	—	—	—	パブリックシア ター
		⑥視覚障害者のための舞台説明会 (対象:主催公演)【新型コロナウイルスの影響により中止】	—	—	—	—	パブリックシア ター/シアター ラム
		⑦盲導犬を伴っての観劇 (対象:主催公演)【新型コロナウイルスの影響により中止】	—	—	—	—	
		⑧視覚障害者向けの解説付き音声ガイド (対象:主催公演)1公演	6月26日	—	16	—	
		⑨聞こえにくい方向けの音声サポート (対象:主催公演)8公演	通年	—	48	—	パブリックシア ター/シアター ラム
⑩聴覚障害者のための上演台本の貸出 (対象:主催公演、要事前申込)	通年	—	6	—			
⑪聴覚障害者のためのオンライン手話サービス (アクセス、チケット購入方法等)	通年	—	—	—	劇場ホームペー ジ		
⑫非常時の避難方法及び広域避難場所への地図の配布	通年	—	—	—	パブリックシア ター/シアター ラム		
⑬聴覚障害者のためのコミュニケーションボードの設置	通年	—	—	—	パブリックシア ター		
⑭日英中字幕付公演 対象公演:狂言劇場その九	6月25日、27日	—	38	—	パブリックシア ター		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 47	
来館者サ ポート	来館者サポート	【世田谷美術館】 新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25~5/31)は休止 ①手話通訳付き講演会・講座等	—	—	—	—	世田谷美術館	
		②車椅子、昇降式車椅子等の貸出	通年	—	—	—		
		③ベビーカーの貸出	通年	—	—	—		
		④授乳スペースの提供	通年	—	—	—		
		⑤音声誘導装置の導入	通年	—	—	—		
	来館者サ ポート		【世田谷文学館】 新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25~5/31)は休止 ①車椅子の貸出	通年	—	—	—	世田谷文学館
			②ベビーカーの貸出など	通年	—	—	—	
			③授乳室の利用	通年	—	—	—	
			④託児サービス	実施せず	—	—	—	
		せたがやアーツカード	世田谷区在住の15歳以上を会員資格とする無料の会員制度。財団主催の公演チケットの割引・先行発売や展覧会観覧料割引などの特典により、事業参加者や施設利用者の拡大を図った。メールマガジン配信を希望する会員には、各事業部の最新情報の提供を行った。 有効期限を令和3年12月末から半年間延長し、令和4年に行う現会員の一斉更新を機に、令和4年度からの指定管理期間5年間に有効期限とすることとした。	通年	無料	会員数 18,229 メルマガ 配信者数 10,993 割引利用者 10,910	18,000	—
	財団広報	財団広報	①財団ホームページの運用 財団運営に関する情報及び各事業部の事業紹介について掲載した。	通年	—	—	—	—
			②財団概要誌(財団パンフレット)改訂版を制作した。	10月~4年3月	—	1,000部	—	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 48	
財団広報	せたがや文化・スポーツ情報ガイドの発行	財団各部事業を広く区民等に周知するためタブロイド判の情報紙を発行した。区報25日号と合冊し、新聞(主要6紙)に折込んでの戸別配布、図書館等の区施設、区内鉄道駅広報スタンド等に配架した。(12回) 令和4年度からのデザイン業務について、公募型プロポーザルを行い委託事業者を選定した。	毎月25日発行	無料	各221,500部	各221,500部	—	
文化芸術の拠点施設の管理運営	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理 [指定管理]	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理を行った。	通年	—	—	—	世田谷文化生活情報センター	
		[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止] 生活工房セミナールーム、ワークショップルームの貸出を行った。 ※ワークショップルームはワクチン接種会場として使用	通年	9,790～3,160	7,571件	—	世田谷文化生活情報センター	
		世田谷区内の劇団等による演劇・舞踊公演など、様々な催し物を実施した。 3団体(公演回数10回)	通年	5,000～無料	1,170	—	世田谷文化生活情報センター	
	世田谷美術館及び分館の施設維持管理 [指定管理]	[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止] 世田谷美術館及び3分館(向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮本三郎記念美術館)の施設維持管理、区民ギャラリー及び講堂の貸出を行った。	通年					
		①世田谷美術館区民ギャラリー 102団体	通年	1日あたり1室 13,820他 (利用は6日単位)	46,583	—	世田谷美術館	
		②清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー 32団体	通年	1日あたり2,880他(利用は6日単位)	3,491	—	清川泰次記念ギャラリー	
	世田谷文学館の施設維持管理 [指定管理]	③世田谷美術館講堂 23団体	通年	1日10,800他	730	—	世田谷美術館	
		世田谷文学館の施設維持管理を行った。	通年	—	—	—	世田谷文学館	
	[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休止] 講義室の貸出を行った。夏季については講義室を熱中症対応スペースとして使用した。	通年	無料	972	—			
	物品販売事業	パブリックシアターDVD等の販売	劇場で上演された公演等を映像化したDVDや関連商品の販売を行った。	通年	2,700～500	2,155件	—	世田谷文化生活情報センター
美術館ミュージアムショップの運営		[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25～5/31)は休業] ミュージアムショップにおいて、ゆかりの作家関連商品、収蔵品のオリジナルグッズ等の直接販売、企画展図録、関連グッズ・書籍等の受託販売、他館等でのオリジナルグッズの委託販売を行った。	通年	—	—	—	世田谷美術館及び3分館	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所 49
物品販売事業	文学館ミュージアムショップの運営	[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25~5/31)は休業] ミュージアムショップを運営し、展覧会に関連したオリジナルグッズの開発、制作及び販売、また、企画展図録、関連グッズ、書籍等の受託販売を行った。	通年	—	—	—	世田谷文学館
飲食物提供事業	ロビーカフェの運営	[新型コロナウイルスの影響による休業] 世田谷パブリックシアターのロビーカフェを委託により運営した。	—	—	—	10,000	世田谷文化生活情報センター
	レストランの運営	[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25~5/31)は休業] 世田谷美術館内のレストラン「ル・ジャルダン」は、利用者等への飲食提供サービスおよび結婚式等パーティー(53組)を実施した。	通年	—	13,190	20,000	世田谷美術館
	カフェの運営	[新型コロナウイルスの影響による臨時休館中(4/25~5/31)は休業] 世田谷美術館内の地下喫茶「セタビカフェ」にて、来館者への飲食提供サービスを行った。	通年	—	37,194	30,000	世田谷美術館

3. 事業評価

(1)生活工房

従前より「暮らし×デザイン」を切り口に、参加型、体験型の事業を中心に展開してきた生活工房だが、前年度から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、区民の拠点施設としての強みを活かした事業展開が難しい一年であった。施設運営面では、緊急事態宣言により4月25日～5月31日が臨時休館となったほか、感染拡大の状況に応じた世田谷区の方針に従い、貸館の定員や利用時間、利用内容を制限した。

また、ワークショップ室、コミュニティキッチンを含む4階全体が世田谷区のワクチン集団接種会場として通年使用されることになり、年間の事業計画を大きく見直すこととなった。

そのような制約の中でも3階、5階の施設を生かして展示やワークショップ、セミナー等事業を継続し、8mm フィルム映像のアーカイブを活用した常設コーナーも設置した。同時に、オンライン配信環境を整備し、対面とオンラインを使い分けながら事業を行った。ホームページの記事の充実や、セミナーの記録映像の制作、公開等、文化芸術の情報発信にも努めた。

事業においては、暮らしに身近な文化施設として、「食と農」「ヒトと動物の色覚の多様性」「子どもの遊びとデザイン」「異文化理解」「コロナ禍での人とのつながり」「市井の人々の暮らし」など、多様な切り口で文化の豊かさ、奥深さに触れ、見慣れた生活の中で新たな発見のヒントになるような展覧会を開催した。セミナーでは、「働くこと、生きること」や「住まうこと」等をめぐり、講師や参加者との対話を通じてテーマを掘り下げた。

また、新たな試みとして、目の見えない人と見える人がともに映像を鑑賞するオンライン・ワークショップを開催し、包摂的な事業のあり方を探った。市民活動支援講座はリニューアルし、区内の市民活動のプレイヤーを囲んで話を聞くトークシリーズとして、キックオフイベントを行った。

管理面では経年劣化が進んでいる箇所の保全を行ったほか、令和4年に世田谷文化生活情報センターが開館25周年を迎えるのを機に、駅からの案内サインや、館内外の表示の改善を図った。

年間の施設の開館日数は281日であったが、展覧会の会期を長くしたことにより、SNS や口コミ情報が集客に繋がりがやすくなったことや、常設コーナー設置等の効果により、事業参加者、施設入場者の合計は212,399人(うちオンライン1,085人)となった。(ワクチン集団接種は除く)

(2)世田谷パブリックシアター

新型コロナウイルスの影響により、断続的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出される中、全国公立文化施設協会や緊急事態舞台芸術ネットワーク等を通じて情報収集を行い、劇場独自の感染予防ガイドラインを整備し、関係者や観客が触れる部分に抗ウイルスコーティングを施すなど、可能な限りの感染症対策を行ったうえで事業を実施した。また、台湾からのアーティストの来日が不可能となった『悟空』においては、作品の映像上映と日本のサーカスアーティストによるパフォーマンスを組み合わせた形での上演に切り替えた。さらに、「密」を避ける観点から近隣商店街での開催が難しいと判断した「三茶 de 大道芸」は会場をシアタートラムに移し、人数を制限して実施するなど、柔軟な対応を行った。

観客動員については、主劇場・シアタートラム両劇場の年間入場者総数は88,828人となった。新型コロナウイルスの影響により公演中止が相次いだ令和2年度(65,418人)に比べて持ち直しが見られるものの、コロナ以前の令和元年度(114,500人)の水準には未だ遠い状況である。イベント等の開催制限に伴って定員の50%以下で実施した公演も多かったが、秋以降は定員の100%以下に制限が緩和されており、『愛するとき 死するとき』や『マーキュリー・ファー』などは当初計画数を大きく超える数の観客を集める